

学校法人 佑愛学園
愛知医療学院短期大学

2023年度 授業評価レポート



2024/7/18

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 生命の科学
- 2 エネルギーのしくみ
- 3 情報処理
- 4 心理学基礎
- 5 人間関係論
- 6 コミュニケーション論
- 7 レクリエーション
- 8 外国語 1 (英会話)
- 9 外国語 2 (韓国語会話)
- 10 外国語 3 (中国語会話)
- 11 現代社会の理解
- 12 生物と環境
- 13 教養演習 [1PT]
- 14 教養演習 [1OT]

【専門基礎科目】

- 15 解剖学Ⅰ
- 16 解剖学Ⅱ
- 17 解剖学Ⅲ
- 18 解剖学実習[1年]
- 19 解剖学実習[2年]
- 20 生理学Ⅰ
- 21 生理学Ⅱ
- 22 生理学実習
- 23 運動学総論
- 24 運動学Ⅰ
- 25 運動学Ⅱ
- 26 運動学実習 [PT]
- 27 運動学実習 [OT]
- 28 人間発達学
- 29 一般臨床医学

- 30 公衆衛生学
 - 31 臨床心理学
 - 32 内科学
 - 33 整形外科学
 - 34 神経症候学
 - 35 精神医学
 - 36 小児科学
 - 37 医療安全学・救急医学[1年]
 - 38 医療安全学・救急医学[2年]
 - 39 画像診断学
 - 40 健康科学
 - 41 リハビリテーション概論
 - 42 リハビリテーション社会論[1年]
 - 43 リハビリテーション社会論[2年]
 - 44 社会福祉学
 - 45 障がい者スポーツ概論
- ### 【専門科目】
- 46 理学療法概論
 - 47 理学療法研究法Ⅰ
 - 48 理学療法研究法Ⅱ
 - 49 臨床運動学[PT]
 - 50 運動療法総論
 - 51 理学療法管理
 - 52 理学療法倫理
 - 53 検査測定法
 - 54 検査測定法実習
 - 55 人体触察法実習
 - 56 理学療法評価法
 - 57 理学療法評価法実習
 - 58 中枢神経系障害理学療法治療学
 - 59 中枢神経系障害理学療法治療学実習

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 60 運動器系障害理学療法治療学 | 97 身体障害作業評価学 |
| 61 運動器系障害理学療法治療学実習 | 98 精神障害作業評価学 |
| 62 内部疾患系障害理学療法治療学 | 99 発達障害作業評価学 |
| 63 内部疾患系障害理学療法治療学実習 | 100 作業療法研究法 |
| 64 小児疾患系障害理学療法治療学 | 101 作業治療学理論 |
| 65 小児疾患系障害理学療法治療学実習 | 102 作業療法治療学実習 |
| 66 老年期障害理学療法学 | 103 身体障害作業治療学Ⅰ |
| 67 日常生活活動学 | 104 身体障害作業治療学Ⅱ |
| 68 日常生活活動学実習 | 105 身体障害作業治療学実習 |
| 69 義肢装具学 [PT] | 106 精神障害作業治療学 |
| 70 義肢装具学実習 [PT] | 107 精神障害作業治療学実習 |
| 71 物理療法学 | 108 発達障害作業治療学 |
| 72 物理療法学実習 | 109 発達障害作業治療学実習 |
| 73 理学療法特論Ⅰ (神経生理学的アプローチ) | 110 高齢期作業療法学 |
| 74 理学療法特論Ⅱ (関節運動学的アプローチ) | 111 日常生活作業学Ⅰ |
| 75 理学療法特論Ⅲ (筋生理学的アプローチ) | 112 日常生活作業学Ⅱ |
| 76 理学療法特論Ⅳ (スポーツ障害理学療法) | 113 日常生活作業学実習 |
| 77 生活環境論 | 114 高次脳障害作業治療学 |
| 78 予防理学療法実習 | 115 義肢装具学 [OT] |
| 79 地域理学療法学 | 116 義肢装具学実習 [OT] |
| 80 臨床実習Ⅰ (見学) [1PT] | 117 リハビリテーション関連機器 |
| 81 臨床実習Ⅱ (地域) [1PT] | 118 地域作業療法学 |
| 82 臨床実習Ⅱ (地域) [3PT] | 119 地域作業療法学実習[2年] |
| 83 臨床実習Ⅲ (評価) [3PT] | 120 就労支援学 |
| 84 臨床実習Ⅳ (総合1) [3PT] | 121 臨床実習Ⅰ (見学) [OT] |
| 85 臨床実習Ⅴ (総合2) [3PT] | 122 臨床実習Ⅱ (地域) [OT] |
| 86 卒業研究[3PT] | 123 臨床実習Ⅲ (評価) [OT] |
| 87 総合演習[3PT] | 124 臨床実習Ⅳ (総合1) [3OT] |
| 88 作業療法概論 | 125 臨床実習Ⅴ (総合2) [3OT] |
| 89 臨床運動学[OT] | 126 卒業研究[3OT] |
| 90 基礎作業学 | 127 総合演習[3OT] |
| 91 基礎作業学実習 | |
| 92 作業療法管理 | |
| 93 作業療法倫理 | |
| 94 作業療法評価法 | |
| 95 作業療法評価法実習Ⅰ | |
| 96 作業療法評価法実習Ⅱ | |

2023 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、FD&SD 委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

また、学生自身が授業への取り組みや学修行動を振り返り、確実に学修成果を修めることを目的とする。

2. 実施方法

2023 年度開講科目を対象として、授業毎にアンケートを実施する。

学生は、履修した科目のアンケートを Web アンケート（Google フォーム）方式で回答する。

3. アンケート内容

I 授業の内容について	2 問
II 授業の方法について	5 問
III 授業担当教員について	4 問
IV あなたの受講態度について	3 問
V あなたの学習態度について	1 問
VI この授業についてのあなたの満足度	2 問
VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握	3 問
VIII 総合評価	2 問

4. 調査結果の集計

調査結果の集計は、FD&SD 委員会が行う。

5. 調査結果の配布

実施した専任教員および非常勤講師には、集計結果ならびに設問別の平均値や回答割合を添えて配布する。

6. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力をお願い

FD&SD 委員会

本学では「授業の質」を高めること、皆さん自身の学修行動を振り返り、確実に学修成果を修めることを目的として、授業科目毎に「学生による授業評価アンケート」を実施しています。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることはありませんので、安心して率直に回答してください。

皆さんの建設的な意見によって、本学の授業がより良いものになります。真剣に回答頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

<実施科目>

全科目・全クラス

※但し、下記の科目は、科目の性質上、一部アンケートの設問を除外して実施します。

〔総合演習 ・ 臨床実習 ・ 卒業研究〕

<実施時期>

原則として、各科目 1 回、授業の最後に実施します。

<実施方法>

履修した科目について、Web アンケート（Google フォーム）方式で回答します。

※オムニバス形式の授業の場合、全体で一つの授業科目としてアンケートを実施します。

（オムニバス形式の授業のアンケートは、担当教員別には実施しません。）

<所要時間>

およそ 5～10 分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない

II 授業の方法について

3. 授業の進み具合は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
4. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
※オンライン授業の場合、パソコン・スマートフォン・Web環境の不具合によるものは除く
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
5. 板書の文字の大きさ、書き方、レジュメ（配布資料）の提示は効果的でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
6. ICTの使用は効果的でしたか
※ICTの使用とは、プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、デジタル教材、電子媒体でのレポート提出等を指します
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
⑤ICTの使用はなかった
7. 指定された教科書や参考図書、参考文献などの使用は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない

III 授業担当教員について

8. 講義の準備を十分にしていたと思いますか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
9. 意欲的に、熱意を持って取り組んでいましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
10. 授業の開始時間、終了時間をきちんと守っていましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
11. 私語など授業を妨げる行為に対して、適切な対応をしましたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
⑤授業を妨げるような行為はなかった

IVあなたの受講態度について

12. この授業に対して熱心に取り組みましたか
- ①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ
③あまり熱心に取り組まなかった ④熱心に取り組まなかった
13. 理解できない点などを質問しましたか（複数選択可）
- ①授業中に授業担当者に質問した ②オフィスアワーを活用して授業担当者に質問した
③Google フォーム等の振り返りシートを活用して授業担当者に質問した
④十分理解できたため質問していない ⑤授業担当者に質問していない
14. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
- ①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③あまり取り組まなかった
④取り組まなかった

Vあなたの学習態度について

15. この授業1コマにつき、事前事後学習としてどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）※事前事後学習とは、授業担当教員から提示される課題も含まれます
- ①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間 ④2－3時間 ⑤3－4時間 ⑥4時間以上

VIこの授業についてのあなたの満足度

16. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
- ①満足している ②どちらかといえば満足している ③あまり満足していない
④満足していない
17. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
- ①得られた ②どちらかといえば得られた ③あまり得られなかった ④得られなかった

VIIディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

18. この授業の授業到達目標を知っていましたか
- ①知っていた ②知らなかった
19. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
- ①知っていた ②知らなかった
20. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
- ①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③あまり達成できなかった ④達成できなかった
⑤ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII総合評価

21. この授業を4段階で総合的に評価してください
- ①良い ②どちらかといえば良い ③どちらかといえば悪い ④悪い
22. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

〈授業評価アンケート 「総合演習」「臨床実習」「卒業研究」〉

IVあなたの受講態度について

1. この授業に対して熱心に取り組みましたか
①熱心に取り組んだ ②どちらかといえば熱心に取り組んだ
③あまり熱心に取り組まなかった ④熱心に取り組まなかった
2. 理解できない点などを質問しましたか（複数選択可）
①授業中に授業担当者に質問した ②オフィスアワーを活用して授業担当者に質問した
③Google フォーム等の振り返りシートを活用して授業担当者に質問した
④十分理解できたため質問していない ⑤授業担当者に質問していない
3. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③あまり取り組まなかった
④取り組まなかった

Vあなたの学習態度について

4. この授業1コマにつき、事前事後学習としてどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）※事前事後学習とは、授業担当教員や実習指導者から提示される課題も含まれます
①全くなし ②1時間未満 ③1-2時間 ④2-3時間 ⑤3-4時間 ⑥4時間以上

VIこの授業についてのあなたの満足度

5. この授業を受けて、知識修得に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③あまり満足していない
④満足していない
6. この授業を受けて、学習に達成感を得られましたか
①得られた ②どちらかといえば得られた ③あまり得られなかった ④得られなかった

VIIディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握

7. この授業の授業到達目標を知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
8. この授業科目がディプロマポリシーとどのような関連をもっているか知っていましたか
①知っていた ②知らなかった
9. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく授業到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③あまり達成できなかった ④達成できなかった
⑤ディプロマポリシーや授業到達目標がわからない

VIII総合評価

10. この授業を4段階で総合的に評価してください
①良い ②どちらかといえば良い ③どちらかといえば悪い ④悪い
11. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

科目名

1.生命の科学

担当教員

森谷 和司

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

22名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.86であり、概ね良い評価であったと思われる。「意欲・熱意」は高く評価され、専門科目ではないが、目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことがわかった。

しかし、学習態度に関する内容で、「事前事後学習時間」は低く評価され、各講義で事前事後学習に取り組みやすい課題や、説明の必要性を感じた。

毎回の講義で、講義に関係ある生物(実物)や標本、関連書籍などを持参して回覧した。ネット社会の下では、いろいろな情報や写真・映像を手軽に見ることができるようになったが、実物を手に取って触れる機会は遠ざかってしまっていると感じている。ネットでは実際の大きさ、質感などを実感することは難しく、実物に触れると、その大きさや質感を肌で感じ取ることができ、新たな発見の可能性も広がる。自由記載で「実物や標本に触れることができた」と記載した学生が多かったことは、大変喜ばしい。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

◆今後に向けて

生物学は日々発展しており、iPS細胞などは実際の医療にも導入されつつある。このような中で、専門科目との関連性も考慮したうえで、本講義で取り扱う内容も検討を重ねていく必要がある。特に「遺伝子(DNA)」や「発生(再生医療)」に関する分野は積極的に取り入れていく必要があると思われる。

また、時間的な余裕があれば、学生にもう少し深く考えさせる課題を提示して考えることも大切であり、学生間のグループでの意見交換も、特に「生命倫理」の分野の理解には効果的であると思われる。

今後も、講義に関係ある生物(実物)や標本、関連書籍などを利用し、生物をより身近に感じられるような講義を行っていきたい。また、「ディプロマ・ポリシー」に関しては、「知らなかった」が半数程度あり、説明不足を感じた。講義内容とディプロマ・ポリシーとの関連性を学生に伝えることで、意欲的な学習を促したい。

科目名

2.エネルギーのしくみ

担当教員

後藤 理夫

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

26 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

回答をした学生数は、受講生の三分の一強の26名であり、回答をした学生は、受講して何らかの手ごたえ、糧を得た学生だと思う。したがって、評価も肯定的な結果が示されている。

去年は、自由記載に「板書の文字が小さい・読めない」の意見が多くあった。今年度は一人もない点から推察すると講義内容での感想が薄く、記憶に残る講義でなかった学生が多くいると推察できる。予習はしなくて良い代わりに課題で復習に力を入れてくださいと言ってきた、その結果が提出率がすごく良かったのでいささか読みと違った。

自由記述で答えてくれている演示実験しかできなかったが、実物を自分の目で観察することが理解を増すことにつながる自然科学を学ぶときの基本を思い出した。

◆今後に向けて

前記した通りでその年その年に出会う学生と創造する授業にするのみです。

科目名

3.情報処理

担当教員

田中 雅章

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

61名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業が始まる時に、8コマと制限されたコマ数で、Word、Excel、PowerPointを指導するのはムリがあると思われたが、学生として必要な内容であるため実施した。その結果、半数以上の学生は授業についていくことができたが、半数近くの学生は授業についていくのが必死だったり、ついていくことができないとの回答であった。原因として、商業科出身の学生にとっては復習レベルの内容で楽しく授業を受けることができた。しかし、普通科出身の学生にとっては、高校時代の情報科目の実施状況に学校差があるため、Windowsの基本操作やOfficeの基本操作を理解しているか、理解していないのかの差が大きかった。

学生には、Word、Excel、PowerPointの課題を3つ課した。うまく課題を作成することができない学生は、よくできる学生に教えてもらいながらも、ほぼ全員が無事に課題を提出することができた。課題の提出率が、ほぼ100%であるということは、学生が努力した結果であると評価できる。また、やや難しいレベルの課題で、学生の能力が向上できたのが良かったと思われる。

◆今後に向けて

今回は授業のコマ数が8コマと制限があった中で、ムリなカリキュラムを実施したのは反省しなければならない。幸いにも来年度からは15コマと拡大されるので今回のようなことはないと思われる。また、15コマあれば学生の理解状況に応じて授業の進捗を軌道修正することが可能である。今回よりも学生の不満度が減少することができると思われる。

次回は、授業終了時にデジタルリフレクションの提出を確実にし、提出結果を活用し、総合的に学生の授業の満足度が向上するように努めたい。

科目名

4.心理学基礎

担当教員

金子 幾之輔

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

21名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

高く評価されたのは、「教員の授業への取り組み姿勢や態度」であった。良かった点では、「授業が分かりやすかった」、「カウンセリング実習などの体験学習を行い、今後の生活に役立つものと思った」ということであった。この結果は、できる限り日常生活上の事象を取り上げながら、平易に解説したこと、体験学習やグループワーク等のアクティブラーニングを実施することで、学生が主体的に学習できるように配慮したことによるものと推察される。

一方、低く評価されたのは「授業内容」であった。この原因は、スライドの内容に理解し難い箇所があったことによるものと考えられる。また、「事前事後学習」の評価も低かった。これは、ガイダンスや授業の中で、その必要性を繰り返し説明したが、学生に十分理解されなかったものといえよう。

さらに、「ある事項を説明する際に不適切な発言があった」等の記述があった。このようなマイナスのイメージを抱かれた学生にはお詫びする。

◆今後に向けて

授業を一層分かり易くするために日常事象を取り上げながら平易に解説すること、体験学習やグループワークなどのアクティブラーニングを実施すること等を継続して、より多くの学生が主体的に学習し、今後の生活に役立てられるような知識・技能を修得できるように配慮する。

スライドに記載した内容を理解し易くするために補足資料を配布する等の工夫をする。

「事前事後学習」については、学生が各自のノートに「事前事後学習」の欄を設け、学習した内容を毎回、記載するように指導する。

学生にマイナスのイメージを抱かれない、または誤解されないように、発言には、より一層留意していく方針である。

科目名

5.人間関係論

担当教員

金子 幾之輔

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

41 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

高く評価されたのは「教員の授業への取り組み姿勢や態度」であった。また、良かった点では「グループ学習や体験学習の導入」について記載する学生が多かった。これらの結果は、グループワークや体験学習等のアクティブラーニングを導入することで、より多くの学生が主体的に学習できるように配慮したことによるものと推察する。

一方、低く評価されたのは、「授業内容」であった。これは、「スライドのみならずプリントも配布してほしい」との学生の自由記載から鑑みると、授業内容を一層理解しやすくするための補足資料の必要性を要望したものと考えられる。「事前事後学習」での評価も低かった。これは、ガイダンスや授業で説明を繰り返したが、実際に遂行する学生が少なかったことを反映したものといえる。

さらに、リフレクションの提出締切時間が早すぎるとの指摘があった。本授業では、リフレクションの提出が出欠確認の手段ともなっているため、短時間で締切せざるを得ないことを了解してほしい。

◆今後に向けて

グループ学習や体験学習等のアクティブラーニングの導入を継続し、より多くの学生が楽しく主体的に学習できるように努める。

授業内容を一層理解しやすくするために、プリント等の補足資料の配布を考える。

「事前事後学習」については、学生が各自のノートに「事前事後学習」の欄を作成し、毎回、当該内容を記載するように指導するなどして改善を図る方針である。

科目名

6.コミュニケーション論

担当教員

丹羽 重信

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

60 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データの21.「総合」は3.5であった。受講生に概ね受け入れられたということなのだろう。レーダーチャートに出ている項目に限れば、すべてで3.0を超えているが、チャートに出ていない「ディプロマポリシーとの関連」や「到達目標の意識」が2.5を下回っていた。コミュニケーションという広すぎるテーマに戸惑いながら講義に出席していた学生が多かったかもしれない。自由記載の意見のいくつかにそれが表れている。授業の予習・復習に関しては1.58という最低の結果が出ているが、この講義の教養科目としての位置づけから、学生の負担を少なくできたものと肯定的に考えたい。女子学生の人数が多かったためか、例年よりも教室全体の受講態度が良かったように感じられる。「行為注意」の必要はまったくなかった。そのおかげもあってか、解説に力を入れることができ、「教員」関連の項目がいずれも4に近い高い評価になったのは嬉しい限りである。

◆今後に向けて

「コミュニケーションの授業なのにコミュニケーションがなかった」という学生の厳しい意見には大いに反省させられた。「グループでの作業があるとよかった」という指摘や「レポートに何を書いたら良いのかわからなかった」という感想もいただいている。グループ作業に関しては、それをきっかけに私語を止められなくなるのではないかとこの恐れが教師側にあることを認めなければならない。講義の終盤にそれをやってみるのが良いかもしれない。レポートについては、テーマをより具体的に示す必要があり、学生にもっと時間の余裕を与えるようにしなければならない。振り返ると、最後の2～3分で感想を走り書きして提出してもらうことが多く、とりわけ後半の講義でそれが連続した。「偉人の生涯を知れてよかった」という感想がある一方で、例年のごとく、それと「コミュニケーションとの関連がよく分からなかった」という指摘もあり、ディプロマポリシーとの関連や目標設定も含めて、この講義での学修がどのような価値をもつのかを明確に示していく工夫が必要だと考える。

科目名

7.レクリエーション

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

58名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての項目で平均3.74以上であり、バランスの良い評価であった。今年度は新型コロナウイルス感染症による制限を緩和し、4年ぶりにPT・OT合同クラスでの開講ができた。自由記載では、「楽しかった」との記述が非常に多かった。PT・OT合同の形態には「PT・OTの合わさったグループでレクリエーションを考えることにより親交を深めることが出来た」、学生主導のアクティブラーニング方式の授業には「ただ楽しむだけではなくどんなレクリエーションをしたら効果的で楽しんでもらえるのかを実践的に学ぶことができて良かった」、専門職教育としての視点からは「レクリエーションとリハビリテーションを組み合わせることで利用者のやる気などの精神的な面からアプローチできることを学べて良かった。新しい見方を得ることも出来た」との肯定的な意見が挙げられた。教員の関わり方も「学生一人一人を伸ばすような発言や全体に分かりやすいような言動をしていた、教員も学生と一緒にレクリエーションに参加し、その場の雰囲気良くしていた」と評価する意見が挙げられた。全体的に、教員の授業構成の意図が伝わったようである。

◆今後に向けて

本科目では、くじ引きで偶然一緒になったグループメンバーと、15時間を共に活動する。他のグループメンバーに楽しんでもらうためのレクリエーションを計画し、実施し、振り返るという一連の流れを、教員の助言のもと行う、完全なアクティブラーニング形式の授業である。4年ぶりの合同クラスでの開催は、教員にとって安心して授業運営できる環境であった。PT・OTそれぞれの良さや弱さが良い意味で中和され、個性が強調され過ぎず、かつ、埋もれすぎないという環境の中、緊張感から少し開放されながら自身の得意な面や不得意な面を見定めていくという点で、初年次教育の一環としてこの時間を多くの学生が有意義に使ってくれたのだと考える。今回は教科書を指定せず、図書館の所蔵からレクリエーションを探してもらうことを試みた。レクリエーションの選び方にやや短絡的な面を感じたため(計画が進むにつれて徐々に練られてはきたのだが)、今後は目的に応じて内容を選定するという工程についてもう少し丁寧に学生に伝えてみようと思う。

科目名

8.外国語 1 (英会話)

担当教員

James Higa

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

21 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

The students demonstrated a commendable level of diligence and competence in their assignments. Their high level of motivation likely played a significant role in their success. It's wonderful to see such positive outcomes in the classroom!

I also appreciated the wonderful feedback which I received:

先生が親しみやすく、とても楽しい授業でした。グループワークや発表など楽しく体験することができてよかったです。生徒が英語がわからなかった時に先生が生徒が理解できるように話してくれてとてもありがたかったです。

英語苦手だけど、1回1回の授業が楽しくできた。

And would also like to thank the students for their time in filling out the class evaluation.

◆今後に向けて

I would like to encourage the students to engage in conversations using the vocabulary and phrases they've learned in class.

科目名

9.外国語 2 (韓国語会話)

担当教員

金 春子

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

39 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

今年も多くの学生が、韓国語を学びたくて熱心に授業に参加してくれたことを嬉しく思う。自由記載で多くの学生が「繰り返し学んだことが良かった」と書いていて、やはり、繰り返すことが大切だと感じた。また、習ったハングル文字を学生に読ませて、自発的に読むことに力を入れて授業を進めた。ハングル文字を読めるようになり、韓国語の勉強が楽しくなったと思う。

◆今後に向けて

一人でも多くの学生が、ハングル文字を読むことができるように、楽しみながら読めるように、さらに改善していきたい。会話も繰り返し練習してスラスラ韓国語が話せるように改善していきたい。

科目名

10.外国語3（中国語会話）

担当教員

侯 英梅

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

10名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データについて

集計結果の評点の低かった項目は下記の4つである。

質問項目1.「授業の内容は、あなたにとって興味深いものでしたか。」

今年度は授業内容を変更した。今までは異文化や習慣についてたくさんの時間を費やして説明したが、今年度はテキスト通りに会話練習を重視することにした。テキスト通りなので、つまらないところがあったと思う。

質問項目2.「授業の内容は、あなたにとって理解しやすいものでしたか」

授業の理解度を確保するために、例文のみ作成してもらったが、不十分だったと思う。

質問項目8.「講義の準備を十分にしていたと思いますか。」

今年度、新しいやり方に変え、学生にたくさん会話させることを重視して講義を行った。講師が説明する時間が少なかったため、十分に準備していないように思われたかもしれない。

質問項目16.「この授業を受けて、知識習得に満足していますか。」

質問2の集計結果が低かったため、この項目の集計結果も低かったと思う。

学生の自由記載の内容について

受講者10名のうち7名は「中国現地の大学生とリモートで話ができとてもよかった」と評価した。

今年度、リモートという形で、初めて講義の中で日中両国の大学生に交流してもらった。双方の学生たちは、こういう形で交流できて嬉しかったとコメントした。

◆今後に向けて

来年度、シラバスを見直し、学生の興味や関心を喚起するような授業内容を検討したいと思う。自由記載に「中国の学生さんと交流することができたのでよかった。時間が短かったからもっと長くしてもよいと思う」という意見があったため、今後も日中大学生の間の交流も引き続き行ってもらいたいと思う。なるべく多くの履修者にとって興味深い授業、多くの知識を学べる授業にしたいと思う。

科目名

11.現代社会の理解

担当教員

蔵本 紗知

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

26名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全項目の結果が3以上であり、学生からある程度の評価を得られたと考えられる。特に、「時間」は4、「進行」は3.88、「説明」「板書・レジュメ」「熱意」は3.84の評価であった。一方で、「授業到達目標」と「ディプロマ・ポリシーとの関連性」の認知については約6割の学生に留まっていた。

学生の自由記載においては、講義内でさまざまな社会問題を扱ったことについて、「現代社会でのことについて様々なことを知り、多くのことを学んだ。普段ふれないような話題にふれることができて良かった。」という記述があった。資料の利用については、「新聞などの資料がたくさん印刷してあって自分の知識を増やすことができて良かった」という記述があった。コメントシートを用いたフィードバックについては、「授業で学んだことを振り返りながら自分の意見を書けて、そのコメントシートを次週の授業の最初に取り上げてわかりやすく復習してくれてとても頭に入りやすかった」という記述があった。新聞記事の利用やコメントシートのフィードバックを通して現代社会への理解をより促進したいという、本講義の目的がある程度達成されたことが考えられる。

◆今後に向けて

学生から一定の評価を得られた「時間」「進行」「説明」「板書・レジュメ」「熱意」については継続的な取り組みを行っていききたい。特に、新聞記事をはじめとする資料の利用をさらに充実させることで、社会問題をより身近に感じてもらえるような講義を行いたい。

また、コメントシートを用いたフィードバックの際には、社会問題に対する多様な見方や意見を取り上げることで、学生の視点を多角的なものに養うことを意識したい。加えて、講義内容とディプロマ・ポリシーとの関連性を学生に明確に伝えるようにし、本学の教育理念と講義内容との関連性を認知してもらうことで、学生の意欲的な学習を促進したい。学生が、講義の到達目標である「身近な社会問題への理解・思考・興味・関心」を深められるよう、講義内容のさらなる改善を図っていききたい。

科目名

12.生物と環境

担当教員

森谷 和司

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

23 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.87であり、概ね良い評価であったと思われる。「意欲・熱意」は高く評価され、専門科目ではないが、目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことがわかった。一方、学習態度に関する内容で、「事前事後学習時間」は低く評価され、各講義で事前事後学習に取り組みやすい課題や、説明の必要性を感じた。

毎回の講義で、講義に関係ある生物(実物)や標本、関連書籍などを持参して回覧した。ネット社会の下では、写真・映像を手軽に見られるようになった反面、実物を手に取って触れる機会は遠ざかってしまっている。実物を触ることで、その大きさや質感を肌で感じ取ることができ、新たな発見の可能性も広がる。自由記載で「実物や標本に触れることができた」と記載した学生が多かったことは、大変喜ばしい。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

◆今後に向けて

生物は「環境」の中で生息しており、ヒトも例外ではない。現在の環境が作られた地球や生物の歴史、環境を知覚するための感覚器や感覚、さらに環境問題の知識や考え方を学習することは、昨今、急速に変化していると言われる地球環境に関する諸問題を理解する上で、「生物と環境」の講義はその重要性を増していると考えられる。

今後も、講義に関係ある生物(実物)や標本、関連書籍などを利用し、生物をより身近に感じられるような講義を行っていきたい。また、「ディプロマ・ポリシー」に関しては、「知らなかった」が半数近くあり、説明不足を感じた。講義内容とディプロマ・ポリシーとの関連性を学生に伝えることで、意欲的な学習を促したい。

科目名

13.教養演習 [1PT]

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

39名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計結果より、どの項目も高いポイントであり、概ね学生の理解等に繋げることができたと考える。学生の取り組み態度としても7割を超える学生が、目標を意識し、熱心に取り組んでいる。ただし、DPとの関連性の理解や、科目の到達目標の達成の面では、若干低くなっていた。入学後間もない時期の開講科目のため、学生の意欲が高い時期であることも一つの要因であると考ええる。

自由記載では、前向きなコメントが多く見られた。特にグループワークで協力できたこと、論文を読む経験ができた、という点で複数の記載があった。今までとは異なる学びの1つが提供できていたと考えられる。また、入学したばかりの開講時期のため、大学での学びや本学での学ぶ内容を改めて説明を加えていたことにより、積極的な取り組みに繋がったと考える。

◆今後に向けて

基本的に大きく修正を加えるよりは、細かな点での修正を加え進めていくようにしたい。授業の進行については、本学での学びを伝えるとともに、DPについての説明や、各科目で到達目標があることを説明し、他科目での学びに繋がるように理解を促していく。授業の進行上、レポート課題の提示時期が遅くなっている状況があった。それにより、学生は課題をまとめる時間が少なく苦勞したとの意見も複数見られたため、課題提示を早めるなどの工夫により、余裕を持って取り組むことができるような進行に努める。事前事後学習を全くしていない学生も見受けられた。教養に関して自己学習を促せるような課題を提示することを検討したい。

科目名

14.教養演習 [1OT]

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

22 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生全員から回答があり嬉しく思う。レーダーチャートを見ると全項目ともに3点台であり、4点近いものとなっている。初回にシラバスの内容を確認したが、授業の到達目標を意識していなかった学生が2割程度おり、またDPとの関連を知らずに授業に参加していた学生が半数近くいることは誠に残念である。自由記述には概ね好評価が書かれているが、到達目標を知らずに出席していた学生が半数ほどいたため、実際は何を目標としていたかの理解には及んでいないのではないかと考えられる。もっと自ら疑問を持てるようになってほしいと願う。

このような中で授業中に質問できたという学生が3割程、十分に理解できたから質問していない学生が3割程、授業中に質問していない学生が4割程いるが少々理解に苦しむ。また、事前事後学習が全くない、と回答している学生が1割強いるが、レポートを課し、そのレポートを採点することも行っていたため、そもそも学習の意味が分かっていない可能性も否定できない。

◆今後に向けて

本科目において、学習した内容について毎回パワーポイントを通して復習したが、知識のレベルに留まっており、上記の内容も踏まえると、実際に行動変容に至った学生は少数に留まると考えている。継続しての取り組みや指導が必要であろうと思われる。この授業だけで学生の行動変容には至るはずもないが、地道な取り組みが必要であろうと考えられる。学生が頭で理解して終わりではなく(もちろん丸暗記ではなく)、実際の学生自身の生活や学習の中に適応させられるプログラムの立案と検証が必要であろう。またそれは全学あげて取り組んでいく必要を感じている。本科目の中では、今後も丁寧に到達目標との関連について説明、および、解説を続け、さらには学生自らの気づきを促進させる仕掛けを作ろうと考えている。

科目名

15.解剖学 I

担当教員

清島 大資

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

56 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合評価において、評価が4段階評価の3.68と概ね評価は良好であった。今回の評価では、「板書・レジュメ」の項目が全体の評価に比べ低くなっている。自由記載にあるように教授内容が多いため、授業のスピードが早くなり、板書の機会が少なかったことが大きな要因と考えられた。また、スライドの文字が少し小さかったのも要因と考えられた。一方、準備、熱意、時間の評価は他の項目に比べて高く、全員に一定の知識を理解してほしい気持ちは伝わっていたと考えられた。

この授業では前期で解剖学の全範囲を終えるため、予習・復習がしやすいようにシラバスに沿った授業を行った。また、その日の授業ポイントの予習・復習ができるように授業資料を準備し、教科書や参考書名を記載しておいた。学生の理解を深めるため、国家試験問題をピックアップし、小テストも実施した。さらに、授業後には必ず質問等の時間を設けるようにした。授業終了時の学生からの質問は、毎回同じ学生からが多かった。できれば、学生自身で疑問に思うことは積極的に質問してほしい。レジュメの文字はもう少し読みやすく改善するようにしたい。

◆今後に向けて

教員の教授時間が多く、一方向の授業となってしまうため、双方向性の授業を取り入れるようにしたいと考えている。様々な資料を授業で使い、イメージ化できたことは評判がよかった。次年度では、もう少し授業開始前や終了時に要点を伝え、予習・復習をしやすくし、改善を図っていきたい。

予習時間・復習時間がまったくなしの学生がおり、少しでも解剖学を勉強したいと思ってもらえる努力をしていきたい。解剖学は暗記になりやすいが、理解する授業を行っていききたいと考えている。予習する時間が多いほど、自分の知識として身に付くことを実感してもらいたい。

科目名

16.解剖学Ⅱ

担当教員

中野 隆

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

17 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

「興味を持って取り組んだ」等の評価が多いが、実際の講義中は真剣に聴いていない(具体的に記せば、説明に耳を傾けない、メモを取らない)。サブノートのMISSION(課題)などをやらない、アンケート結果においても学習時間がきわめて短い。受け身の姿勢ではなく、自ら学習に取り組む姿勢が欠落している学生が多い。その結果、「過半数の学生が白紙の答案を提出する」という状況が続いている。本学学生の勉学に取り組む姿勢には大いに疑問がある。一方、一部の学生は熱心に講義に取り組み、きわめて高成績である。

◆今後に向けて

サブノートのMISSION(課題)をコピーして提出させる。先輩や友人のサブノートを写すだけの学生も居ると推察されるが、自らペンを持つことだけでも、いくらかはエピソード記憶として残るであろう。

科目名

17.解剖学Ⅲ

担当教員

中野 隆

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

45 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

課題やMISSIONの正解が欲しいと言う要望に対して講義で解説した重要事項を課題やMISSIONにしている。学生各自が自らまとめるべきものである。すなわち、どのような記載法にするか、どこまで記載するかは、各学生が判断するものである。換言すれば、正解は1つではない。科学とは、正解を丸暗記するのではなく、自ら正解を導き出すものである。それに対する質問には、講義終了後に質問時間を設けてある。‘臨床指向’の講義内容について、「興味深い」等の‘肯定的’意見が大多数を占める。単純丸暗記ではなく、思考過程・問題解決能力が必要であることを大多数の‘学生は’理解し出来ていると判断する。

◆今後に向けて

講義終了時間を遵守するべきであり、改善に努めたい。ただし、区切りの良い箇所までは(次の講義に支障がないように)進めることも必要であることも理解されたい。臨床指向の講義は、今後もさらに進める。すなわち、画像解剖、機能解剖を充実させ、古典的な単純丸暗記の解剖学講義は行わない。

科目名

18.解剖学実習 [1年]

担当教員

山田 南欧美、外倉 由之、木山 博資、木村 菜穂子、松村 仁実、
清水 一輝、渡邊 豊明、廣渡 洋史、齊藤 誠、清島 大資

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

17 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合4.00であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

しかし、授業到達目標については知らなかった、達成できなかったという学生が回答者の三分の一程度みられた。各授業の冒頭や授業中に授業到達目標について説明する時間を設けていたが、今後は授業到達目標を意識でき、取り組めるような方法を検討していく必要性を感じた。

◆今後に向けて

模型だけでなく、重要なポイントをまとめたプリントを活用して授業を実施した。学生の意見からも骨模型などを活用することで骨や筋、神経、血管などの位置や形状を理解しやすかったとの意見が多くあった。そのため、今後も模型を活用して、より人体の構造を理解できる工夫をしていきたい。

科目名

19.解剖学実習 [2年]

担当教員

木山 博資、木村 菜穂子、山田 南欧美、松村 仁実、外倉 由之、
渡邊 豊明、清水 一輝、廣渡 洋史、清島 大資

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

22 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.86であり、概ね良い評価であったと思われる。多数の学生が目的などを意識し、熱心に取り組んでいたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

学生の自由記載からは、解剖学実習を通して、教科書・プリントなどと比較することで、とても勉強になり知識や理解が深まった。学んだ知識をアウトプットする機会があり良かったと記述があった。また、見学を通じて理解を深めるだけでなく、解剖学実習の授業到達目標の一つでもある人の命を預かる職域に就く者としての心構えと態度、積極性を感じられる内容があった。今後も、学生が熱心に取り組む、理解が深まるような取り組みを継続していきたい。

◆今後に向けて

解剖学実習に参加することで、実際に構造を三次元的に理解し、構造の重さ、硬さなどを体験することや事前・事後レポート課題などによって知識として身に付くことにつながっていると思われる。しかし、授業到達目標を意識して取り組んでいたことは良かったが、知識習得などが実際に達成しているのか十分評価し、把握できていない点もあるため、実習後の取り組みを検討していきたい。

科目名

20.生理学 I

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

61 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合点が3.80、個別項目も3.62以上であり、学生の評価は良好であった。
自由記載で良かった点は、「分かりやすい」「予習でわからないところがわかるのがよい」「小テストで復習できる」「質問しやすい」「周りの友人と相談できるのがよい」などがあった。
良くない点としては、「スライドのポインターが前だけだったので、後ろのスライドもわかるようにしてほしい」「ホワイトボードの字が見えにくいことがあった。」などがあった。

◆今後に向けて

本科目は、学生の予習をした後に、授業を行う反転授業の形式で行った。予習、授業、復習を行うことで、各学生の知識の定着を狙った。良い点で上がっている意見は、その形式が良かったと評価している。

悪かった点で上がっていることは、その時に意見や質問をしてくれれば、その場で改善できたことである。1年生前期の科目でもあり、学生との意思疎通を図り、お互いに授業改善をする働きかけをするようにしたい。

科目名

21.生理学Ⅱ

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

32名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講者61名に対して回答数は32名である。総合点が3.78、その他の項目が3.69であり、学生からの評価は良好であった。

自由記載で良かった点として、「小テストのおかげで勉強できた」「予習でわからなかったことが授業で質問できた」「周りの人と共有したり確認する時間がよかった」「予習に沿った解説が分かりやすかった」「スライドがわかりやすい」などの意見があった。

良くない点として、「つまらない」という意見が一件あった。

◆今後に向けて

本科目は、予習後、授業を行う反転授業の形式で行った。予習、授業、復習をすることで、知識の定着を狙った。その形式を良かったと思った学生が多かった。ただ、回答者が受講学生の約半分であり、良かったと思った学生のみ回答している可能性がある。

科目名

22.生理学実習

担当教員

宮津 真寿美、齊藤 誠、藤本 大介、外倉 由之、加藤 真夕美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

19 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生59名中、回答者が19名である。

「集計データ」では、各項目もすべて3.5以上で総合点が3.58であり、学生からの評価は良好だった。

「学生の自由記載」では、自分たちで調べて、考えて、まとめるということを通して、理解が深まった、という回答がある。また、教員の解説やアドバイスがよかったという意見がある。ただ、グループ学習でやる人とやらない人がいて、同じ成績なのは不公平だ、という意見があった。

◆今後に向けて

授業時間中にレポート作成を行い、担当教員からレポート内容のアドバイスをもらうように、変更した。そのためか、レポート作成が大変だったという意見はない。ただ、回答者が少ないため、何とも言えない。

来年度、生理学実習は開講されず、また、授業担当教員は変更となり、全く違う形式になる可能性がある。

科目名

23.運動学総論

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

59 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

合同授業であったが全体的には比較的高値であったと思われひとまず安心した。学生の意識としては全体的に取り組んだものが多く、本科目の重要性を認識してくれたものと推察する。事前事後学習も6割強は取り組んでおり、遅れまいと真剣に取り組んでいるものと思われる。興味・理解・知識習得・達成感がやや低値であり課題といえよう。本科目には少し計算が必要となり、高校で数学や物理をしていない学生にとっては辛かったかもしれず、その辺が結果に表れているのかもしれない。自由記載をみると、概ね良い内容が書かれており、授業の進行や方法は概ね評価されたものと思われる。教室の特性上、後部の者がモニターは見えるが教員は見えず苦勞した。これについては書画カメラを取り入れる等工夫するも、細かな学生の機微を拾うことは困難であった点は反省点といえよう。

◆今後に向けて

上記の振り返りを踏まえ考えたところ、授業の進行や方法を大きく変える必要はないと考える。但し、計算等は出身高校によって各学生の進度が異なるため、引き続き、学生の反応を見ながら進行の調節をする必要がある。教科書において基礎運動学は参考として、別途プリントを採用し、そのプリントの穴埋めと演習問題を解くことで知識の定着を図っている。また、パソコンを駆使して、解答を示したり書画カメラで体動を示す工夫は引き続き行う。1名だけ、休憩なしに早く終わることを願う者もいたようだが、それ以外はほとんどが休憩を大いに活用している点がかがえるため、休憩も振り返り時間として活用していきたい。

科目名

24.運動学 I

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

44 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

運動学 I では、頭部、顔面、上肢、姿勢、運動学習の内容を中心に授業を実施した。2コマ続きの授業であり、4、5限と非常に疲労の感じる時間帯であったため、授業の途中で休憩をとり、学生の興味を惹く話題を提供することで、集中できる状況を心掛けた。授業は、スライドを使用した。大切な部分は学生が記入出来る形式のプリントを作成し授業を進めた。授業中は、できるだけ動作を用いてわかりやすくイメージしやすい工夫をし、最後に動画による確認を実施した。そのため、総合で3.89ととても良い評価を得ることができた。

◆今後に向けて

工夫すべき点として、休憩を挟むこと、興味をもつ話をするにより、集中力を高めること。授業のスライドは見やすく、そして、学生は重要な部分を穴埋めする形式で進めていく。実際に体を動かし、最後に動画による内容の確認をする方法で進めてきた。今後も、学生が理解しやすい工夫を継続していきたい。

科目名

25.運動学Ⅱ

担当教員

濱田 光佑、臼井 晴信

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

24 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全ての評価項目で3.7以上の高い評価が得られた。講義の中では、視覚的に理解しやすいように講義用教材(プリント)を使用し、各学生の理解度に合わせながら授業の進行を行った。また、各学生の理解を促すためにグループにて骨標本等を使用した体験学習、学生同士の触診や検査体験の機会を多く創設した。さらに、各講義や授業の区切りには、口頭やICTツールを使用し質問を受け、状況に合わせて補足的な講義を行った。

◆今後に向けて

講義資料や体験を通じた授業の展開は、概ね高い評価を得ている。その点においては、講義の中で継続していきたい。一方で、学生の理解や修学度には個人差が大きい状況である。各学生の修学度を高めるためにも、グループワークや学生間の情報交換の時間を十分に担保していきたい。さらに、各学生とのやり取りが双方向性のものとなるように、ICTツールを使用し匿名性を担保した上で、質問できる状況を作るなどの工夫を行っていく必要がある。

科目名

26.運動学実習 [PT]

担当教員

山田 南欧美、松村 仁実、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

13 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

38名の受講者のうち、13名の回答であり、約1/3(34%)の回答となっている。各項目において3点台後半の結果であった。回答学生の7~8割は、目的を理解し熱心に取り組んでいたことが窺える。事前事後学習時間については、1時間未満が4割、4時間未満が4割弱と二極化していた。実習を行いグループでレポート作成をすることから、事後学習に時間がかかることが考えられる。また、自由記載にも意見があったが、グループでのレポート作成を課しているため、グループ内での役割分担ができず、学生間に差が生じていることが読み取れる。

授業を通して、機器類の使用方法や文献の読み方を学び、研究への足掛かりをつかんだ学生もいた。

◆今後に向けて

この科目は、これまでに学んだ基礎知識を実習を通して理解を深める授業であり、機器類の使用や発表を通して理学療法研究へつながる科目でもある。併せてこの科目は、グループで課題に取り組み、まとめるという科目であり、お互いに協力する態度が求められ、その力を養う科目でもある。理学療法を考える上での試行錯誤する機会の1つとして、引き続き実習を通して学ぶ機会としたい。

授業開始時に、授業のねらいを説明し身に付けてほしい能力などを説明をしている。学生自身の気づきを促せるような取り組み方法について検討する必要があると考える。

科目名

27.運動学実習 [OT]

担当教員

外倉 由之

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

4名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.75であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

しかし、予習・復習をしていないと回答した学生がみられることや質問の少なさもあった。各授業で予習・復習に取り組みやすい課題を設けていたが、今後は取り組み状況を確認していく必要性を感じた。本科目は作業療法士にとって重要な概念である日常生活活動の一部を運動学的に分析し、運動学で学修した肢体の構造、人間の動きに関して理解を深める必要があるため、教科書だけでなく、補足的なプリントや動画を紹介し、グループワークを通じ、体験することで学生が興味を持つことにつながったと思われる。

◆今後に向けて

今後も、学生が主体的に取り組める形での講義を継続していきたい。しかし、学生の予習・復習時間が不十分であったため、必要な時間が確保できるような課題設定を見直し、より知識が定着できるよう工夫をしていきたい。

科目名

28.人間発達学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

15 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

リハビリテーションの遂行に際し、出生前や新生児期、乳幼児期の障害がその後の発達へ大きく影響する場合も少なくない。そこで、この時期の基礎的な発達状況の捉え方、見方をやや時間を割いて行った。具体的には、生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱とし、それぞれの発達過程にみられる代表的な疾患を提示し、発達過程と疾病成立との関連性を理解しやすいよう工夫した。更に、より広い視点でアプローチできるよう、それぞれの段階における成育ポイントを、多数のイラストや写真、図、データなどを活用してプリント作成し、講義した。

学生アンケートの印象は概ね好意的であり、「プリントは見やすかった」「理解が深まった」などの意見があった。

◆今後に向けて

授業が単調に流れないよう、適宜ボードへの書き込みなども行いながら講義を進めた。その際、少し丁寧に書字したせいか、幸い例年指摘される「字が読みづらい」との意見は少なくなったようだ。

学生と直接討議する機会もできれば多く持つよう試みたが、学生からの発言は少なく、低調であった。発達学の前提としての常識的な範囲で訊ねたが、学生にとっては普段余り意識していない事柄のようで、今後どこまで授業で取り上げるべきか、課題として残る。学生は真面目に聴講しており、その意に応じて行かなければならない。

科目名

29.一般臨床医学

担当教員

長谷川 昇、杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

18名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

【杉山】

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、当大学でもようやく対面授業が再開された。この間、オンライン方式授業はより講義に相応しいと考えられるなどの一部擁護論があったが、現実はそうとは思えず、学生それぞれの授業態度をつぶさに感じ取りながらの対面講義の優位性には格別のものがあった。

私の担当領域は「診察の仕方」「症候学」。実際の臨床で活用、応用できるよう考慮した内容を盛り込み、作成プリントを進めた。学生からは概ね好評で、「レジュメが分かりやすかった」「説明が理解しやすかった」などの反応があった。ただ、試験結果は期待した程ではなく、一部の学生では基本的な病態認識がまだまだ不十分であったことは残念である。

【長谷川】

集計データは、すべての項目で3.6以上で、満足のいく授業ができたと考えられる。毎回、問いを投げかけそれに対する解答を導くような講義形式で行っている。問いの部分のレジュメとして投影して進めたことが、自由記載の、「説明がわかりやすかった」、「レジュメがわかりやすかった」の記述になったと考えられる。一方、「説明が早すぎる」との記述も見られ、来季からの検討事項としたい。学生の意識として、「取り組んだ」割合が70%以上あり、事前事後学習も、1時間未満ではあるが、50%以上の学生が行っていた。さらに、興味を持たせるよう、内容を検討したい。

◆今後に向けて

【杉山】

試験結果については、準備時間が詰まって十分に取れなかったことも一因と思われ、もう少しゆとりある時間割が組めればとも感じた。今後の課題として提議したい。

また、一般臨床医学の立場を踏まえ、授業で学生に課題を割り振り、それを基に討議していくなどのやり方もあるが、時間的にカリキュラムがタイトであり、実現しにくい状況ではある。

三年間という短い在学期間ではあるが、ある程度余裕を持って楽しく有意義な学生生活を味わえるよう、そしてその中で医療の奥深さに目覚め、人間存在の素晴らしさに気づき興味を抱けるよう、人材育成への努力を続けなければならない。彼らは何とんでも我が国医療の礎となるのだから。

【長谷川】

自由記載で、「説明が早すぎる」との記載があったことから、特に難解な部分については、繰り返し、ゆっくりと解説するように努めたいと考える。さらに、学生の興味を深めるため、他の科目との連携を深められるよう、工夫していく予定である。

科目名

30.公衆衛生学

担当教員

横尾 和久

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

20 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

①講義の前週に資料を配布し、予習の材料とする。②講義は配布資料とパワーポイントを併用して要点を解説する。③毎回の講義終了後「振り返り」のレポートを課す。④「振り返り」で理解不足が多かった箇所については解説する。⑤最終試験は「振り返り」からも出題する。以上の講義形式は、概ね学生諸君に好評だったと考える。

◆今後に向けて

次年度の講義も、基本的には同じ形式を踏襲する。配布資料のブラッシュアップを図りたい。教科書の記述の理解だけに留まらず、応用・発展的な内容も付加させたい。具体的には、新聞報道などで取り上げられる公衆衛生の話題(少子高齢化・生活習慣病など)についても、授業で討論できる時間を設けていきたい。

科目名

31.臨床心理学

担当教員

金子 幾之輔

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

26 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

比較的高く評価されたのは、「教員の授業への取り組み姿勢や態度」であった。また、良かった点では、「面接法実習などの体験学習の導入」について記載する学生が多かった。これらの結果は、グループワークや体験学習等のアクティブラーニングの成果を反映したものと推察する。

一方、低く評価されたのは、「授業内容」であった。この原因は、スライドに記載した文字が多く、理解し難い箇所があったことによると考える。また、「事前事後学習」の評価も低かった。これは、ガイダンスや授業で説明を繰り返したが、実際に遂行する学生が少なかったことによるものといえる。

さらに、リフレクションの提出締切時間が早すぎるとの指摘があった。本授業では、リフレクションの提出が出欠確認の手段ともなっているため、短時間で締切せざるを得ないことを了解してほしい。

◆今後に向けて

アクティブラーニングの導入を継続し、より多くの学生が楽しく主体的に学習できるように配慮する。

スライドに記載した内容を平易に解説したり、プリント等の補足資料を配布したりするなどして授業内容を一層理解しやすいように工夫する。

「事前事後学習」については、学生が各自のノートに「事前事後学習」の欄を作成し、毎回、記載するように指導するなどして改善を図る方針である。

科目名

32.内科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

24 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

新型コロナウイルス感染症対策が緩和される時期を迎え、学生もやや安堵したかのように落ち着いて対面授業に参加していた。ややもすると“内科学”では居眠りする学生も垣間見たが、今期はそれが少なく受講意欲もあり、かなり興味を示していたことが集積データからも伺える。

講義には多数のイラストや写真、レントゲンなどの画像、図、表などを活用したプリントを作成し、それに沿って授業を進めているが、学生からも好意的に評価された。中には「カラーで理解がし易かった」などの意見もいただいた。講義中に内容をどれだけ把握し分析できるかは重要な視点であり、学生の理解度を深めるためにも、今後も努力し維持していきたい。

◆今後に向けて

学生に課題を割り振り、それを基に討議していくなど、より臨床的で闊達な講義を目指すことも可能であるが、求められる講義量も少なくはなく、時間的に窮屈で実現しにくい状況である。試験については、負担緩和の目的で中間、期末の2回に分けて実施している。学生にもこれに賛同する声があることや、何といたっても試験結果が上向くことなどを実感すると、継続するつもりである。

本学は三年間という短い在学期間ではあるが、余裕のある楽しい学生生活が送れるよう、そして医療の奥深さに目覚め、人間存在の素晴らしさに気付き興味を抱くよう、これからも人材育成への努力を続けて行きたい。彼らは我が国医療の礎となるのだから。

科目名

33.整形外科学

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

28 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

今年是对面授業であったが、昨年オンライン授業で使用した方式、すなわち金曜に講義の要点を記した講義ノートを送り予習してもらい、火曜日の講義当日は講義ノートをプリントアウトしてもらい、重要と思われるところにマーカーで印をつける方法である。講義終了後は講義で使用したスライドをPDFファイルとして送付した。実際の対面で講義を行ってみるとほとんどの学生は講義ノートをプリントアウトしてきているが、中にはプリントアウトしてきていない学生もいた。家庭にプリンターがないとかインク代がかかるなど個人の理由によるものと思われた。そこで昨年は送付した講義ノートとスライドは講義の翌日に削除していたが、今年は試験が終わってから削除することにした。これによりいつでも講義ノートとスライドで復習ができ高評価につながったと思われる。講義時間が30時間もあり達成感が少ないのは致し方ない。

◆今後に向けて

来年は講義時間が15時間に減るが、今年と同じ方法で行う予定である。講義ノートをプリントアウト出来ない学生のためにA4で3-4枚ある講義ノートをもっと簡略化して、パソコンや携帯の画面でも見やすくしようと考えている。講義ノートとスライドは試験終了まで消さないのは今年と同じである。

科目名

34.神経症候学

担当教員

勝野 雅央、橋詰 淳、横井 聡、深見 祐樹、山田 晋一郎、伊藤 大輔、服部 誠、植松 高史、古川 宗磨

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

41 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計結果においても、自由記載においても、概略良好な評価を得られたと感じている。レジュメを用意し、同時にスライドを映写しながら講義を進める形がよく受け入れられているようであった。

講義の内容について満足している一方で、講師が毎回変わることで「十分質問できなかった」「復習することができなかった」との評価が一部あったことを踏まえ、できるだけ質問しやすい環境を設定することに留意する必要があると考える。

◆今後に向けて

神経症候学は、初学者にとって理解が難しく、場合によっては「聞く気を失ってしまう」分野かもしれない。

しかし、リハビリテーションを要する患者を診察するために、神経症候学の理解は必須であり、動画を多く取り入れる、国家試験の問題と一緒に取り組むなど、学生の興味を刺激しながら進めていくなどの工夫をしていきたい。

科目名

35.精神医学

担当教員

古井 景

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

42 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

1日5コマを3回という集中講義であったため、疲労しやすかったのであれば申し訳無く思う。しかしながら、その一方で、まとまりを持って学ぶことができた。事例を挙げ説明したことが理解しやすかったと好評を得たことに関しては、感謝申し上げます。今後も、より興味、関心を高めていただけるよう工夫していきたい。

今回は、精神科デイケア、作業療法に関する言及が十分でなかったと思われ、次年度の改善点としたい。授業の達成目標に関しての理解が不十分であった点は説明不足であった。

また、質問する機会が少なかった点、学習の到達目標が明確に伝わっていなかった点に関しては、次年度の課題として検討したい。1回5コマの集中講義であったため、1コマ当たりの予習・復習の時間数が少なく計上されてしまったと考えられるが、試験の成績は皆、高得点をとっており、事後学習は充分になされていた。

◆今後に向けて

生物学的精神医学に留まらず、臨床心理学的視点、地域医療的視点を取り入れ、理学療法士、作業療法士としての臨床に必要な視点を幅広く習得できるよう工夫したい。理学療法士を志望する学生にとっては、精神疾患罹患者への興味が乏しいかと思われるが、精神症状を伴う脳機能障害罹患者の理学療法に関わる可能性もあり、また、精神科デイケアで精神疾患罹患者の作業療法に関わる可能性もあり、将来の臨床活動に生かせる知識を身につけられるよう、工夫したい。各項目の後、質問時間を十分に設け、授業時間内に疑問点が解決できるよう努めたい。また、国家試験対策として、過去既出問題を提示し、解説する時間も確保したい。

科目名

36.小児科学

担当教員

杉山 成司

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

31 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

新型コロナウイルス感染症対策が緩和される時期を迎え、学生もやや安堵したかのように落ち着いて対面授業に参加していた。授業中に居眠りの学生も少なく、受講意欲もあり、色々興味を示していたことが集積データからも伺える。

講義には多数のイラストや写真、レントゲンなどの画像、図、表などを活用したプリントを作成し、それに沿って授業を進めているが、学生からは好意的に受け止められた。中には「カラーで理解がし易かった」などの意見があった。講義中の内容をどれだけ把握し分析できるかが一つの主点であり、学生の理解度を深めるためにも、今後も努力し維持していきたい。

時に、授業中ボードへの書き込みで学生から「読みづらい」との声がある。プリント講義の単調さを補う意味合いもあり、適宜ボード書字も併用している。学生の指摘通り走り書き気味になることも少なくないが、説明を加えながらの書き入れであり、学生諸君にもいささか奮起し読み解き、付いてきてもらいたい。

◆今後に向けて

学生に課題を割り振り、それを基に討議していくなど、自由でより臨床的な授業を設けることも可能であるが、時間的に窮屈で実現しにくい状況である。試験については、内科学では負担緩和の意味もあり、中間、期末の2回に分けて実施している。確かに分散すると試験結果が良くなることも期待できるが、制約も多く小児科学では実行できていない。

本学は三年間という短い在学期間ではあるが、今後も余裕をもって楽しく学生生活を送れるよう、そして医療の奥深さに目覚め、人間存在の素晴らしさに気付き興味を抱くよう、人材育成への努力を続けて行きたい。彼らは我が国医療の礎となるのだから。

科目名

37.医療安全学・救急医学 [1年]

担当教員

宮津 真寿美、廣渡 洋史、種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

15 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

今年から私の担当となった科目である。医療安全と救急医療をまとめた教科書がないため教科書は使用せずに行った。講義前に講義内容をまとめた講義ノートを送り、講義はスライドを用いて行い、なるべく字を少なく画像を多くし、動画として提供されている部分は動画を用いて講義を行ったところ、動画部分が学生の理解を助けた様で、試験成績も良かった。

◆今後に向けて

現在用いているスライドの画像部分をなるべく動画に変更できれば学生の理解がもっと上がる可能性があると考えている。

科目名

38.医療安全学・救急医学 [2年]

担当教員

宮津 真寿美、松村 仁実、山田 南欧美、横山 剛、瀨田 光佑、松田 裕美、廣渡 洋史、種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

44 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

「集計データ」では、各項目3.5以上で、総合点が3.61と、学生からの評価は良好であった。「学生の自由記載」では、実際にBLSを行ったのが良かった、分かりやすかった、など、良い意見のみであった。

◆今後に向けて

昨年度まで日赤のBLS講習を行っていたが、今年度からこの地区の消防署の方に来ていただき、BLS講習を行った。学生からの評価も良好であったため、継続していく。

科目名

39.画像診断学

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

45 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

今年もオンラインでの講義であった。前日に講義内容をまとめた講義ノートを送り、講義はスライドを使って教科書に沿って行ったため、学生も手元で大きな画像を見ながら受講できたのが良かったと思われ、試験点数も良かった。講義の最後に国試問題を提示したのも良かった様である。

◆今後に向けて

来年度もオンラインなので、本年度とほぼ同様の方法で講義を行う予定である。

科目名

40.健康科学

担当教員

鳥居 昭久、高橋 圭

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

18名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

【鳥居】

集計データを見る限り、大きな問題は感じない。

予習や復習などの自主学習が少ないのが残念である。

受講態度が非常に悪い学生が多い印象があり、口頭で強く注意せざるを得ない状況が少なくなかったことが記憶されている。医療人を目指す学生として有るまじき受講態度の学生がいることは大変残念である。医療人としての素養が欠けているのではないだろうかと疑念を禁じ得ない。この点は、大学として一貫して学生指導を徹底していただきたいと感じる。

また、健康科学の講義内容は、解剖学、生理学が十分に理解できていない学生には難しい部分もあり、配当年次などの工夫も必要と考える。

【高橋】

高橋が2コマ、「健康と栄養」というテーマで栄養について話をさせてもらった。1コマ目は栄養が学生の専門にどうかかわるのかという点や栄養素の基本について話し、2コマ目にもう少し身近な内容(食品表示やスポーツ栄養、食材の分類)などについて講義を行った。コメントにもあったが、学生が今まで気にしていなかった内容だと思うので興味を持って聞いてもらえたと考え。小テストを授業の最後に実施し、授業時間内には終われなかった学生がいたかもしれない。

◆今後に向けて

【鳥居】

姿勢分析など学生が主体的能動的に行う内容をさらに充実させていきたいと考えている。特に、トレーニングやコンディショニング関連の内容は、解剖学、生理学の知識を応用していく内容であり、科目受講前の十分な予習課題を提示するなど、講義の理解を促す仕組みを検討したい。

【高橋】

高橋が実施の「健康と栄養」について、他職種との連携や理解という意味でも栄養について話をさせてもらっているのは、ありがたいことだと考えている。栄養や食事について学生に興味を持ってもらえるような内容を取り入れていきたい。また、質問の時間を授業後にしばらく教室にいることで対応していたが、授業時間内に取り入れていなかったため、今後はその時間を設けたい。

科目名

41.リハビリテーション概論

担当教員

加藤 真弓

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

52 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

4点満点のうち、平均すると約3.7であり概ね良好であると考え。3.5未満の項目として「理解」があった。自由記載には、ネガティブな意見として、質問内容がわかりづらい、繰り返し説明する時に説明の内容が違う、グループワークはPTOTの専攻別がよい、ポジティブな意見としてグループワークにより他者の意見が聞けた、コミュニケーション力や協調性が身についた、資料が見やすく分かりやすい、事例検討では大変で細かく考えることが知れてよかったなどの意見があった。

「理解」で点数が低めだったのは、単に専門用語を学ぶのではなく、考え方の理解、概念や理念の理解など考えることが中心であったこと、質問の抽象度が高かったことが予想される。繰り返し説明する時には、言葉を暗記することが重要ではないため、理解を促すために説明の仕方を工夫していた。言葉だけ暗記しようと思う人には、もしかしたら言っていることが毎回違うと思われるかもしれない。

◆今後に向けて

自由記載を含めて肯定的な意見であったため、グループワーク(教員インタビュー、事例検討、ペアワーク)、リハビリテーションや医療・介護・福祉に関する新聞記事レビュー、單元ごとの目標の事前提示と予習、小テストなどについて継続していこうと思う。資料配布については、事前に教科書を読んで予習した学生には有効活用してもらいたいが、教科書を読まずして資料だけに頼るのは読解力の向上の機会を奪ったり、安易な学習にさせてしまうのではないかと心配がある。グループワークでは、PTOTの専門的視点の共通事項と相違事項をお互いに知ることや異なる価値観の人と協働する経験を求めたい。

科目名

42.リハビリテーション社会論 [1年]

担当教員

木村 菜穂子、松村 仁実、山田 南欧美、濱田 光佑、横山 剛、松田 裕美、廣渡 洋史、清水 一輝

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

19 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

レーダーチャートが3点台であったことから概ね好評を得ていたと思うが、回答数が19であり、全体を象徴しているとは言い難いと思われる。自由記載の内容に関しては、これまた、良い評価を得ているが、文字ばかりで分かりにくいなどの記載に関しては、こちらで絵を描けということなのか、その回答内容が分かりにくいのだが、PPTの資料を配布したこと、毎回の授業でこれまでの授業のPPTを振り返り解説を加えていたこと、質問をする時間帯を毎回設けていたことから、「分かりづらい」というよりも、私の立場から言わせていただければ、その回答をした学生が「分かろうとしていない」と見えるのだが、いかがだろうか。参考意見として受け取り、今後役に立てていこうと考える。

◆今後に向けて

今後もグループワークなどを含めて授業を行っていくつもりである。また授業評価で「分かりづらい」などと後から話されるのではなく、これまで行ってきた授業の方法に加えて、授業の中で学生から質問ができるようにさらに工夫していくつもりである。

科目名

43.リハビリテーション社会論 [2年]

担当教員

横山 剛、松村 仁実、宮津 真寿美、山田 南欧美、濱田 光佑、松田 裕美、廣渡 洋史

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

43 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね楽しく学べたであろう結果であった。ゲームを通しての防災であったり、動画を通しての防災意識の向上であったり、実際の防災訓練に参加しての防災活動であったりと学生なりに防災の大切さを理解した内容であった。夏の防災訓練では、暑い日にも関わらず、良く動いてくれていた。次回は少し涼しい季節に移行される予定だが、水分等自己管理も含め、防災意識を更に向上してもらいたい。

◆今後に向けて

結果的には概ね良い内容だったので、基本的に大きな変更をせずに、これまでの内容を踏襲することと、アップデートしながら行っていきたい。

また、能登半島地震等、最新の情報も盛り込んでいけたら良いと考える。また、理学療法士・作業療法士が関わっている災害活動についても意識してお話していきたい。合同講義ということもあり、個々とのやり取りが難しい部分はあるが、できるだけ学生の理解度を鑑みながら準備したい。

科目名

44.社会福祉学

担当教員

伊藤 正明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

38名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

2023年度は2～3コマ連続隔週の講義日程とした。連続コマの中では適宜休憩時間を設けるようにしたが、集計結果「時間:3.42」および自由記載からその設定には課題があったことがわかった。

科目の特性上、映像で生活課題を抱える当事者の声を視聴したことで「動画を見たのでイメージがわきやすくてよかったです」という自由記載からもその効果が感じられた。また2つの専攻混成のグループによるワークが意欲的に受けとめられていたことを自由記載から確認できた。

授業到達目標に対する達成度については「分からない」の回答者が約3割であった。社会福祉学の科目の目的と扱っているテーマ・時間において、何を目標としてどのように達成しているのかを適宜具体的に示すことが必要と考えられる。

◆今後に向けて

映像教材の活用、2つの専攻混成によるグループ、マンガキャラクターのセリフによる社会福祉の概念理解促進については継続していくことを考えている。評価を得られているものは継続する一方で課題となった時間配分については次のように検討する。次年度以降連続コマとする場合は、その日の授業開始時に進行予定時間と休憩時間を明示しておき、その受けとめについても確認する。

「(本科目が)身近に感じやすいものだったので、考えやすかった」という自由記載のように、学習者にとって社会福祉学の科目を自身の生活の中に感じられ、授業目標がどのように達成できているのかを考えられるよう工夫が必要である。講義日程において前半・中盤・後半に科目の全体と部分、目標と達成方法を問いかけ確認していき、受講生と相互に学習状況を理解していきたいと考える。

科目名

45.障がい者スポーツ概論

担当教員

鳥居 昭久、加藤 真弓

専攻・配当年次

PT・OT 2年

回答者数

22名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計結果を見る限り概ね学生の理解度や関心の高さを感じ、教育効果が有ったのではないかと感じられる。自由記載においても、本科目の目標の中心である障がい者スポーツへの理解に繋がったと考えられる。回答数がそれほど多いとは言えないが、回答した学生はこの科目の内容にかなり興味を持っているのではないかと推察できる。今後の活動に繋がっていくことを大いに期待したい。

授業内容に対して、授業時間が短く、かなり濃度の濃い授業になっていると考えられる。特に障害に沿ったスポーツの工夫など、学生の自主性を高めるための活動時間があまりに少なく、構想を立てる程度にとどまってしまったことが残念である。しかしながら、他の科目を含めて、本学のスケジュールから勘案すると、課外学習課題にしてしまうと学生の負担が大きすぎると感じるため、今後の検討が必要である。

◆今後に向けて

基本的に、本科目「障がい者スポーツ概論」で30時間となっているが、これを展開させるための「障がい者スポーツ実習もしくは演習」と銘打った科目設定が追加されることを大学側には求めたいところである。せっかく学んだ知識を理学療法、作業療法の視点で工夫と実践ができるようになることが目標である。

しかしながら、実際には科目の拡大は将来的要望として、現状としては、より学生に興味を持って取り組める内容(最新のトピックスや動画・画像資料)を多く取り入れ、具体的イメージを更に高められるようにしたいと考えている。また、可能であれば、学内サークルなどにも展開できる方策を考えたい。

科目名

46.理学療法概論

担当教員

宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

39名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合点が3.79であり、学生からの評価は良好だった。

自由記載で良かった点として、「レポートがあり、大変だったが、理解が深まった。」「レポート課題の時間を授業中にとってくれたので質問しやすかった。」「グループワークがあり、詳しく調べることができた」「理学療法の理解が深まった」等の意見があった。悪かった点として、「理解できないところを教科書でみてもよくわからなかった」などの意見があった。

◆今後に向けて

ブレインストーミングやレポート作成、グループワークなどを組み合わせて、理学療法の背景や定義、役割などの授業を行った。初年次前期の科目でもあり、レポート作成やグループ発表を経験することで、深く学ぶことを実感したようだ。今後も、様々な教育方法を組み合わせて、学修できるとよいと考える。

科目名

47.理学療法研究法 I

担当教員

宮津 真寿美、加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、木村 菜穂子、
山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

18 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生42名中、18名の回答である。「集計データ」では、各項目3.5以上、総合点が3.89で、学生からの評価は良好である。「学生の自由記載」では、先生方の研究が聞けて、興味深かった、スライドがわかりやすかった、など良い意見ばかりである。

◆今後に向けて

学生にとって、教員の研究内容を聞けることは、楽しいようだ。学生の評価も高く、良い意見しかないなので、このままの形で継続するとよいと考える。

科目名

48.理学療法研究法Ⅱ

担当教員

宮津 真寿美、加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、木村 菜穂子、
山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介、田中 雅章

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

16名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

履修学生45名中、回答数が16名だった。

総合点が3.56であり、学生からの評価は良好であった。

自由記載で良かった点として、「自主的な学びが身についた」「学生間や教員との議論をする中で、問題解決能力が上がった」「指導教員から何度もわかりやすく指導してもらった」「分析方法がわかった」などがあった。悪かった点として、「テストと研究で大変だった」「難しいと感じた」という意見があった。

◆今後に向けて

理学療法研究法Ⅱは、指導教員の指導のもと、卒業研究の研究計画を立て、理学療法士としての問題解決能力を向上させることが目的である。それを良かったこととして回答している学生が何人もいた。引き続き、授業の説明と指導を継続するとよいと考えた。

科目名

49.臨床運動学 [PT]

担当教員

松村 仁実、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

42 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業評価アンケートからは、特筆して低い評価は認めず、授業方法、内容、学生満足度共に安定した評価となっていた。最も点数の低かった、行為注意に関しては、本科目が基本的にグループワークを主体とし、課題の取り組みには一定の裁量を学生に与えていることが要因だと考えられる。グループによっては、役割が特定の人物に偏ることや参加貢献度の差が生じていた可能性がある。適宜、グループワークの状況を確認していたが、今後はさらに学生のグループワークが円滑に進むよう対応していく必要がある。

◆今後に向けて

本科目では画像や映像を使用し動作分析を行っていった。その為、その課題に対する取り組みはグループワークが主体となっているが、学生の役割の固定化等については対策の必要がある。具体的には、グループを少人数制にすることや課題によって再度グループを編成し直すこと。さらにはグループワークの参加貢献度を測定できるように設定し、教員が評価を行う等を検討する。また、学生個人によって理解度に差が出る場合が想定されるが、適宜授業に関するフィードバックを促し、学生の理解度をモニタリングしていく必要がある。

科目名

50.運動療法総論

担当教員

松村 仁実

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

18名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講者に対する回答者数が少なかった。回答者の集計では、項目すべてにおいて3点台後半であり授業としては評価されていると考えられる。自由記載の意見では、授業の進行の仕方の工夫で理解が深まったとの声が比較的多かった。一部、科目の重要性に気づいたとの声があったことも評価できる。毎回実施した小テストについては、理解につながった学生もいれば難しさとして感じた学生もいた。復習につながった学生とそうでない学生がいたと思われる。

回答者の多くは、授業に対して目標を意識して熱心に取り組んでいたことが分かった。質問に関しては、4割ほどの学生は質問をしなかった、別の4割の学生は授業中に質問をした、十分理解したため質問しなかった学生も2割ほどいた。

◆今後に向けて

授業方法については、復習を交えたり、他科目との関連性を示すことを行った。考える時間を作り、発表させることでお互いの考えを伝えあう時間を確保できていたことは継続したい。小テストの問題の作成方法については、いつも悩むところである。小テストをきっかけに振り返り、さらに知識の定着や思考を深めることができるような工夫が必要と考える。知識の確認や応用といった問題を取り入れながら、学生自身ができていることが分かり、学ぶ必要があるポイントを考えられるようなものを検討したい。

授業中に当てながら進めることもしばしば行っている。回答によっては、改めてこちらから質問を投げかけることもするが、学生からの質問を受ける工夫も今後の課題である。

科目名

51.理学療法管理

担当教員

加藤 真弓、松村 仁実、臼井 晴信、山田 南欧美、齋藤 誠、藤本 大介

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

30 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データの全ての項目で平均3以上であり、授業構成や講義内容に特に問題はなかったと思われる。仕事をする上で大切なことを学べた、リスク管理について学べたなど講義内容について具体的で肯定的なコメントも多く、卒業前に行う授業として適切であったと思われる。単に「良かった」と回答しているコメントも多いが、具体性に欠けるため何が良かったのかはわからない。しかし概ね肯定的に捉えていたと判断するしかない。

◆今後に向けて

国家試験に向けての学修を本格的に行っている時期に開講される科目である。課題などはできる限り授業内で完結させ、その他の時間は学生の自己学習に委ねることが、本科目の学修効果を高める上でも重要であると思われる。卒業後、理学療法士として働き、学生が自己研鑽を積んでいける礎となるようなメッセージを教員から送れるような講義を今後も行えると良いと思う。

科目名

52.理学療法倫理

担当教員

松村 仁実、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

31 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データの全ての項目で平均3以上であり、授業構成や講義内容におおきな問題はなかったと思われる。オムニバス形式で複数の教員がそれぞれのテーマで講義を行った。レポート課題などを講義外時間に課す場合もあったが、国家試験前と言うこともあり授業時間内で完結することが多かった。そのため、講義時間外での学習時間が全くないと回答した学生が多いのは必然であると考えられる。自由記載欄のコメントからは、仕事をする上で、臨床に出る上で必要なことを学べたとの意見が多く、卒業前に行く意義のある講義であると思われる。

◆今後に向けて

国家試験のための学修を本格的に行っている時期に授業が配置されている。そのため、できる限り授業内で課題などを完結させ、他の時間は学生の自主学習に委ねることが本科目の学修効果を高める上でも重要であると思われる。今後もオムニバス形式の現在の授業構成を継続して行う。

科目名

53.検査測定法

担当教員

木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

19 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全ての評価項目で、3.5以上の評価だったので、授業の進め方については大きな問題はなかったと考えられる。自由記載の内容をみても、「分かりやすかった」といった評価が多く、よかった。

学生の自己評価としてほぼ全員が「熱意を持って」「目的意識をもって」取り組んだと考えており、それが授業前後の学習時間にも表れていると思われる。

◆今後に向けて

自由記載で「分かりやすい」と同じように「質問しやすかった」という記載も多くみられた。また、様々な結果から、この講義の重要性もきちんと伝わっていると思われる。他の講義との関連性を理解し、「人体触察法実習が終わってから検査測定法があったらよかった」といった記述もあった。カリキュラム編成についても、より工夫して行いたい。

今後も、すこしでも学生に伝わりやすい、将来につながる授業の工夫を続けていきたい。

科目名

54.検査測定法実習

担当教員

木村 菜穂子、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

20 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどの評価項目で、満点に近い評価であり、全体的には大きな問題はなかったと考えられる。

学生の自己評価としてほぼ全員が「目的意識をもって」「熱心に」取り組んだと評価しており、それが授業中の質問や授業前後の取り組み時間にも具体的に表れている。

自由記載でも多くの人が「分かりやすかった」「すぐに質問できる環境でよかった」と回答しており、授業の進め方としても問題はなかった。

◆今後に向けて

自由記載に「個別の質疑応答が具体的かつわかりやすく、理解が深まり自身の学習の飛躍につながったと感じた」「質問すると、やり方だけでなく代償なども考えることが出来てとても勉強になった。また、女性の場合はどうすべきか考えてやるようにという言葉になるほどと思わされました。」「全てを教えるのではなく、大切なところを言って、他は自分たちで考えるようにされていたので、暗記だけじゃなくて考えながらできた」などの回答があり、担当教員一同がこの講義を行うにあたって大切にしていることが伝わっていると感じ、うれしく思う。

ただ、学生の熱意や取り組みと、その結果(理解や身につけた技術の程度)が必ずしも一致してない部分もある。今後も学生が正しく理解し、しっかりと技術を習得できるよう、更なる工夫を行っていきたい。

科目名

55.人体触察法実習

担当教員

松村 仁実、木村 菜穂子、山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

17名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

回答者が受講者の4割程度であった。すべての項目で3点台後半以上であった。「興味」、「理解」の項目では4.0となっており、回答者にとっては勉強となった科目の1つと考えられる。一方で、「ICT」の活用はできていないと思っているため、学生の評価との乖離があると感じた。

自由記載からは、実習科目ならではの学びや他科目との関連性の理解が深まったとの意見がみられた。学びを深めるための授業の進行についての意見もあった。実技では、目的の一つであった「患者の立場に立つことができた」との回答もあった。回答した8割以上の学生が、授業中に質問をしている。

毎回実施する小テストは知識だけではなく、実技も求められるものであり学生には負荷がかかる科目であるが、回答してくれた学生にとっては、それ以上の学びにつながっていると考えられる。

◆今後に向けて

今回の回答を見る限りは改善の必要性を見出すことは難しい。現状の方法で学びが可能な学生がいる一方で、知識や技術をつなぎ合わせ、身に付けるということに難渋する学生がいるのも事実である。基礎的な知識を理解し、活用する力は求められる職種であることを常に頭に置き、今回のアンケート結果と同じような回答ができるように学べるようにすることは課題と考える。限られた時間の中で繰り返しの実施は欠かせない。科目に関する知識や技術に加え、他科目との繋げ方やその視点も含めて伝え、まずは模倣レベルでもできるような機会を作るようにしたい。

科目名

56.理学療法評価法

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

30名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全ての項目で3.5を超えており講義構成や授業内容には大きな問題はなかったと思われる。事前、事後学修を全くなしと回答した学生が30%おり、授業外での学修を促す工夫が必要であると思われる。

講義はグループワークを中心に構成した。グループワークでは様々な学生の意見が聞けた点や今までの学修が身についた点などが学生から評価された。また理学療法士の臨床を想定した授業構成を心がけていたが、その点も学生からは評価されていた。

◆今後に向けて

グループワーク中心の授業構成は今後も継続する。特に臨床的な課題を提示し、考えさせるうえで今まで習得した知識を臨床で使える知識とするような課題設定と働きかけを行う。授業外での学修をうながすきっかけとして、全15コマで構成する授業のうち、それぞれの授業がどのような位置づけであり、どのような目標で授業を行うのかを学生に明確に伝える。そのうえで、授業についての予習や復習のポイントなどを伝えようと思う。

科目名

57.理学療法評価法実習

担当教員

臼井 晴信、松村 仁実、齊藤 誠

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

40 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データについて、講義内容の評価は全ての項目で平均3.0を超えており、講義内容や授業構成におおきな問題はなかったと思われる。自由記載でも、「臨床を意識できた」「臨床的な考えが身についた」という意見があり、その点は講義の狙い通りであった。

本科目は臨床実習のための準備を行うための総合的に知識・技術を習得する科目である。目的意識を持って臨むことが、学修効果を高めるために重要であるが、DPとの関連や授業の到達目標を達成できなかった、知らなかったと回答している学生が多いことが問題であると考えられる。

◆今後に向けて

模擬症例をグループワークを中心に考えるスタイルの講義形式は継続する。今年度からグループワークのルールを明確化してグループワークを行ってもらった。グループワークの進め方を学生に提示した上でグループワークを行ったところ、多くの班で有効に生かされていた。授業評価でグループワークに関するコメントが記載されていたのは、肯定的に捉えられると思う。次年度以降もルールの明確化と必要に応じた教員の介入を行っていく。

科目名

58.中枢神経系障害理学療法治療学

担当教員

松村 仁実、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

47 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業評価アンケートからは、特筆して低い評価は認めず、授業方法、内容、学生満足度共に安定した評価となっていた。2人の教員によって学習範囲が異なっていたが、共通して授業用資料や、動画を通じた学習方法やグループワーク等を積極的に活用し理解を促した。学習内容の専門性が高く、抽象的な事象に対し学生のイメージが想起されないこともあったが、適宜、質問等を受け対応を行った。また、学生の理解を確認するために定期的に小テストを行った。一部、内容が難しいとの意見があり、授業の内容や授業進行速度等を修正、調整して対応していく必要がある。

◆今後に向けて

本科目では学習内容の専門性が高く抽象的な事象が多い。また、専門用語も多く、学生のイメージ想起に困難を示すことが多々あった。今後は、授業進行速度を調整しつつ、より学生の理解が進むように、具体的な映像や実技、体験を通じた学修を促していく必要がある。

また、学生間で理解を共有できる時間を持ち、教員に質問をしやすい環境づくりや授業の進行を心掛けることでより深い理解を促していく。さらに授業内において、適宜フィードバックを促し、学生の理解度をモニタリングしていく。

科目名

59.中枢神経系障害理学療法治療学実習

担当教員

松村 仁実、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

36 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業評価に関しては、いずれの項目も3.4以上となっており比較的に安定した結果を得た。中枢神経系という目には見えない抽象的概念や経験したことのない中枢神経疾患に対してのイメージの想起を促すため、画像や動画、実習にて修学を促した。

また、学生間で理解を深めるため調べ学習等を取り入れた。授業の後半には基本的な知識をもとに中枢神経疾患に対する理学療法評価や実際の理学療法を経験させ学びを深めた。一方で、各学生の理解度や修学度には差があり全ての学生の理解が向上する取り組みを実施していく必要が示された。

◆今後に向けて

学生の理解や修学度には個人差が大きい状況である。各学生の修学度を高めるためにも、グループワークや学生間の情報交換の時間を十分に担保していきたい。さらに、各学生とのやり取りが双方向性のものとなるように、ICTツールを使用し匿名性を担保した上で、質問できる状況を作るなどの工夫を行っていく必要がある。また、学生の修学度を把握するため、小テスト等の結果に応じて補足的に授業を展開する等の対応を講じていく。

科目名

60.運動器系障害理学療法治療学

担当教員

齊藤 誠、藤本 大介

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

16 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

回答者数は少ないが、点数としては全体的に良好な結果であったと考えている。本科目では、事前に講義動画を配信し、講義時間に希望者のみに追加の解説を行った。また、学習状況の評価としてほぼ毎時間に小テストを行った。事前に動画を配信する方式については、例年好評な意見が多く、今年度も同様の傾向であった。

◆今後に向けて

動画を配信する反転授業の方式については、今後も継続していきたい。講義の狙いとしては、事前に自己学習を行い、学生自身が疑問点を抽出することで疑問を持つ力を高めることを重視している。しかし、質問が提出される数が非常に少なくなってきたのが現状であり、どのように疑問を持つ力を高めていくかを検討することが今後の課題である。

科目名

61.運動器系障害理学療法治療学実習

担当教員

齊藤 誠、藤本 大介

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

32 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義は整形外科学や運動器障害理学療法学といった病態生理を中心に学習する科目から、理学療法評価学実習や臨床実習Ⅲ～Ⅴといった理学療法士として患者に対する治療プログラムを立案する科目への橋渡しを目的として、模擬症例検討を実施している。治療プログラムにつながるための目標設定、統合と解釈や問題点抽出などを各講義のテーマとして演習を通して学習できるように意識した。

自由記載においては課題の大変さを訴えるものもあったが、治療プログラム設定の仕方や問題点の抽出が詳しく学べて良かったという意見もあり、学習は促せたのではないかと思われる。

◆今後に向けて

レポート課題が多い講義であり、十分なフィードバックに時間を割けないのが課題である。レポート課題に対してはフィードバックとして担当教員の記載したレポート例などを提示するように心がけたが、学習者の意欲や到達度に応じたフィードバック方法を検討することが今後の課題である。

科目名

62.内部疾患系障害理学療法治療学

担当教員

臼井 晴信、宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

18 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどの項目で3.5を超えており、特に講義内容に問題はないと思われる。講義資料や講義中の説明や質問対応については好意的に捉えていた学生が多かった。グループワーク中心の講義であり、実験や課題を通して自ら考え、アウトプットする機会を持てるようにした。学生の個人差はあるものの、学修を促す効果はあったと思われる。内容が難しく、理解するのに苦労した学生が多い様子だった。グループワークなどではお互いに教え合う様子もあり、学生間の学びを促すことができていた。

◆今後に向けて

内容が難しく、必要なことを理解できなかった学生もいた様子だった。今後もグループワークを中心に、実験や演習などを通して考えられる工夫をしようと思う。またグループワークでは、学びに追いつけない学生に対して、適宜声をかけたり、学生間で知識を共有する時間を作れると良いと思う。その学年にあった学びの促しができるとさらに良いと思う。

科目名

63.内部疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

臼井 晴信、宮津 真寿美、杉山 成司

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

32 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データの全ての項目で平均3.0以上であり、特に授業内容や構成に問題はなかったと思われる。症例検討を行ったり、学生が考えた運動プログラムを実践してデータ分析を行ったりなど実践的な授業を中心に構成した。

自由記載では、実践的な内容やグループワーク、症例検討などについての肯定的な意見が多く、意欲的な学びに繋がったと思われる。一方、達成感や知識の習得が低かったり、難しかったと回答した学生がいたり、内容が難しく感じた学生もいた。多少、難しいと感じる学生がいることは問題ないと思うが、学生の意欲が失われるほど難しくならないように配慮する必要がある。

◆今後に向けて

今後も症例検討や学生によるプログラムの実践とデータ分析などの実践的な学修を継続する。内部疾患系障害は目に見えにくい障害であり、学生がイメージすることが難しいかもしれない。

また、多くの生理学的内容を理解する必要があるため、生理学に苦手意識が強い場合、本科目も難しく感じると思う。上記を考慮し、できる限り学生が意欲的に学べる仕掛け作りを考えていきたい。現在行っていることの他に、実験やシミュレーションを用いた学修などを導入しようと思う。

科目名

64.小児疾患系障害理学療法治療学

担当教員

藤本 大介

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

12 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

反転学習が学生の学習能力に相応していなかったことが考えられる。また、馴染みがない小児領域の理学療法の楽しさを伝えられなかったことが残念である。講義形式の再考が必要であると考えられた。

◆今後に向けて

本学学生の学習能力に応じて講義型の授業を基本とし、アクティブラーニングを適宜取り入れることが望ましいと考える。学生が小児領域の理学療法に興味を持てる授業展開を再考する。

科目名

65.小児疾患系障害理学療法治療学実習

担当教員

多田 智美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

10名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

小児理学療法というマイナーな分野に対して授業を通じて興味を示してくれた学生がいることは良かったと思われる。学生が面白そう、楽しいと感じることは学習を進めていくための本質だと思われる。ただ、貴学での滞在時間が短く、4-5時限目の授業の為、学生も質問をするための時間設定ができていないのは反省点である。実習の講義後に学生と会話をする時間を持つように心掛けたが、時間数も限られており、遠慮なく会話ができる関係の構築までできたか考えるとなかなか難しいと言わざるを得ない。到達目標などについては、学生が理解しやすいモノを提案していくことが必要であると思われる。(現在は学生にとってわかりにくい要素があるかと思われる)。

◆今後に向けて

授業に対する興味関心が初めは低くとも、視覚教材の活用や実技と説明(座学)が良好であり、授業の形態としてはこのまま進めていきたいと考えている。シラバス自体は、もう少し学生に分かりやすく平易な表現への修正が必要であると考えている。90分の講義の中で学生同士の話し合いなどのアクティブな活動を増やしたい。最近提供する資料を穴埋め式にするなどして、授業中に資料に書き込むようにはしているが、他にも考えていきたい。また授業前後には学生からの質問を受ける時間の確保が多くはできないため、授業時間内に学生との双方向のコミュニケーションが取れるような時間を設けていきたい。

科目名

66. 老年期障害理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 1年

回答者数

14 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

いずれの評価項目も3.5以上の評価であり、講義の内容や進め方については、大きな問題はなかったと考えられる。学生も「熱心に」「目的意識を持って」取り組んだと評価している人が7割以上であり、興味を持ってもらえた。

1年次後期の開講でなかなかイメージしにくいことが多いため、できるだけ基礎科目(解剖学、生理学)と関連付けて理解できるように工夫した結果、「体験談や臨床での実際の経験を例に説明があるため分かりやすかった」などの自由記載もあり、良かった。

ただ、授業評価アンケートに回答した学生が受講生の半分以下であり、これは多くの人の意見を聞く機会がないということであり、大変残念に思う。

◆今後に向けて

基礎科目は一通り終わっているものの、専門的な学習が始まったばかりの時期の開講であり、講義の組み立ても悩ましいところではあったが、この時期だからこそできること、また2年生の学びにつながることを意識して講義内容を考えた。それが少しでも伝わっているのであれば、うれしく思う。

科目名

67.日常生活活動学

担当教員

藤本 大介

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

11 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

反転学習が学生の学習能力に相応していなかったことが考えられる。

◆今後に向けて

本学学生の学習能力に応じて講義型の授業を基本とし、アクティブラーニングを適宜取り入れることが望ましいと考える。

科目名

68.日常生活活動学実習

担当教員

加藤 真弓、藤本 大介

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

39 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

評価点は3.44～3.59の範囲で、概ね良好であったと考える。熱心に取り組んだか、目標を意識して取り組んだかの質問には、9割以上が「取り組んだ」「どちらかと言えば取り組んだ」と回答していた。本科目では、事例検討をグループにて行い、Power Pointにて発表するアクティブラーニング形式であったことから、グループメンバーと協同することが求められていたことが理由の一つと考えられる。また、実技試験があり、臨床に直結する内容であることが、比較的熱心に取り組むことに繋がったものと推察する。自由記載では、教員数が少ないため授業内に質問ができなかったとあったが、質問をする学生は限られている印象であるため、適切に授業時間を活用して積極的に教員に働きかけるようにしていただければ幸いである。

◆今後に向けて

神経症候学、各理学療法学の知識を基に、患者の生活を環境や病期に即して考えられるよう、事例を提示検討を中心と実技を中心に構成した。今後も同様に行う。知識が身についたかの確認には、单元ごとに小テストを実施し確認する。教員は2名体制であり、変更はない。実技時は、引き続き巡回し質問を受け付けるため、ぜひ積極的に質問をしていただきたい。授業時間内で解決しない場合も往々にしてあると思われるため、オフィスアワーの活用の呼びかけやGoogleFormsの活用も検討する。

科目名

69.義肢装具学 [PT]

担当教員

山田 南欧美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

17 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合的な評価が4点満点中3.71と高い評価を得ることができた。学生の意識に関する質問項目では、目標をもって熱心に取り組んでいた学生の割合が高く、学生のやる気を引き出して授業を実施することができたと考える。

日頃の馴染みが少ない本科目の授業を実施するにあたり、スライド資料に図や写真を多く掲載してわかりやすく作成したり、実物の義足などを見せながら説明したりすることで、学生の理解度を高める工夫をした。その結果、自由記載にて「スライドがわかりやすかった」「実物を見ることができて興味がわいた」「印象に残って勉強がしやすかった」等のコメントが寄せられた。このことが、知識修得の満足度3.76、学習の達成感3.65という高い評価に結びついたと考える。

◆今後に向けて

概ね高い評価を受けられたことから、今後も現在の内容にて授業を展開していく予定である。ただし、義肢装具については年々新しいものが開発・販売されているので、なるべく最新の情報にアップデートしながら、卒後の臨床現場にて役に立つ情報・知識を提供していきたい。

本学所有の義肢装具については、老朽化により正しい機能を発揮できないものも散見されることから、必要に応じて新しいものを導入したいと考えている。そのうえで、適切な調整方法、チェックアウト方法を実物を交えながら説明し、本科目における学修成果を高めていきたい。

授業に関する質問について、GoogleFormsを用いて回収を行っていたが、これを活用した学生は0人であった。授業内で疑問が解消された可能性もあるが、予習復習過程で発生した質問にも対応できるよう、GoogleFormsの使用方法も見直す予定である。

科目名

70.義肢装具学実習 [PT]

担当教員

山田 南欧美、奥野 雅大

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

36 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本授業では、装具の処方を実際を具体的に説明・解説したり、非常勤講師として義肢装具士を招き、実際の義足や義手・装具などに触れる機会を設けるようにした。その結果、自由記載において、「実際に義肢・装具を装着できて良かった」という意見が多くみられた。また、「義肢装具士の話聞いて良かった」との意見も多かった。

加えて、授業内で義肢装具に関連する疾患に関する解説も行うように心掛けた結果、「これまでの知識の復習ができた」「他の分野の知識も関連付けられた」との回答を得られた。このように、実体験や他の分野との繋がりを意識した授業を展開した結果、総合点4点満点中3.69、達成感4点満点中3.58と高い評価をえることができたと考える。

◆今後に向けて

今年度も例年と同様、実際の装具を使用した授業や義肢装具士を招いた授業を行った結果、達成感・知識修得の高い学生評価を得ることができた。よって、次年度以降も同様の形態での授業を実施していく予定である。

義肢装具に関する知識のみならず、他の分野との繋がりを意識したことも高評価を得られているため、引き続き、義肢装具を必要とする疾患についても、その重要性・活用法をしっかりと伝えていきたい。加えて、義肢装具に関する技術は年々進歩を遂げているため、最新の情報を教授できるよう、授業資料のブラッシュアップに努めていく。

科目名

71.物理療法学

担当教員

臼井 晴信

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

41 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

ほとんどの項目で3.5以上であり、講義に大きな問題はなかったと思われる。実際に物理療法機器に触れつつ、実験を行い、結果を個人やグループで解釈して、その内容の講義を受けるといった形式をとった。学生のコメントから、実験を先に行って考えることが好意的に捉えられていた。また最後の講義で症例検討と発表を行ったことが、知識の定着に繋がったと思われる。目標などを意識して取り組んだかという項目で一部の学生が、全く取り組まなかったと回答している。講義内で学修目標を意識できなかったものと思われる。

◆今後に向けて

学修目標についてはシラバスや講義の各回で伝えているが、実験を行う意図やレポートを提出する目的などを詳細に伝えるべきかと思う。改めて講義内でその都度説明をしようと思う。講義内容のその他の部分は大きく変更せず、実験と分析、解説を組み合わせた講義を行う。授業の進みが早いと感じた学生もいる様子だったので、学生の学習状況に合わせた講義を心掛ける。

科目名

72.物理療法学実習

担当教員

臼井 晴信、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

18 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計結果からは、いずれの項目からも比較的高い評価を得た。特に本科目は物理療法学の受講後に連続性を持って行ったことから、学生が物療療法に関する知識を有しており、実習の理解度が深まったと考えられる。また、本科目ではグループワークを主体としグループとしての評価、個人としての評価をそれぞれ行うことで適切な役割分担と協調的な実習を促し効果を得た。一部、学生自ら行った実験の結果、考察が適切なものであったか分からないとの意見が挙がっているため、個々人の学生の疑問を解消できるように適切なフィードバックを行っていく必要がある。

◆今後に向けて

本科目では引き続き、学生の体験を重視し実習を行っていく。一部、学生自ら行った実験の結果、考察が適切なものであったか分からないとの意見が挙がっているため、個々人の学生の疑問を解消できるように適切なフィードバックを行っていく必要がある。また、実習が自身の推論に応じた結果が出なかった場合においても、そのこと自体を様々な視点で考察できるように、適宜、指導を行っていく必要がある。

科目名

73.理学療法特論Ⅰ（神経生理学的アプローチ）

担当教員

加藤 真弓、濱田 光佑

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

17名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業評価は総合3.82、各項目は3.5～3.7と概ね高い評価を得た。神経生理学的アプローチに関する実習を主体とした講義であったが、知識の取得に関しては主に中枢神経系疾患に対する理解度や臨床実習経験の有無から個人差が生じていると考えられる。その点を踏まえ、中枢神経系領域に関する基礎的な知識を確認しながら授業を進行した。

また、各教員が準備した資料により授業を進行したことに加え、神経生理学的アプローチ（PNF法、認知神経リハビリテーション）の体験に一定時間を割いたため、教科書等の使用は限定的となった。

◆今後に向けて

自由記載の内容からは、中枢神経疾患に対する基礎的な知識の獲得に加え、今後の臨床に繋がる実習、実技を経験できたことに対して肯定的な意見が収集された。一方で、講義時間数が限られていたため各神経生理学的アプローチに関する基礎領域の紹介と体験に留まった。今後も各学生の理解度に応じ、基本的な知識の修得と実技体験の割合を調整しながら授業を展開していく。

教科書については、授業中に使用するのとは一部であるが、2年次までの学修及び臨床実習を振り返り、中枢神経系疾患に対するリハビリテーション、理学療法の知識修得、知識体系の再構築をするための自己学習に活用することを、初回のオリエンテーションにて十分に説明する。

科目名

74.理学療法特論Ⅱ（関節運動学的アプローチ）

担当教員

齊藤 誠、鈴木 惇也

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

18名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義では主に運動器疾患に対する治療方法について実技を中心に解説、実施した。アンケート結果より、全般的には良い評価が得られていると考えている。

理学療法特論は、選択科目であり、実習を修了した3年生を対象としていることから、臨床現場に出た際に少しでも役に立つことを目的とした。具体的には運動器疾患を有した外来リハビリテーション患者を想定して、このような患者を担当する際には、担当教員自身が何を考えて、どのような治療を行うかを伝えるように意識した。自由記載において、「将来につながりそうで良かった」という記述があった。

◆今後に向けて

各項目の点数および自由記載においても概ね良好な結果であると考えているため、大きな変更はしない予定である。当然ながら理学療法治療自体も年々変化をするものであるから、新しい知見を取り入れつつ、将来の臨床につながるような内容にしていきたい。

科目名

75.理学療法特論Ⅲ（筋性理学的アプローチ）

担当教員

加藤 真弓、宮津 真寿美、川村 皓生

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

20名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

「集計データ」では、各項目3.5以上、総合点が3.85と、学生からの評価は良好であった。「学生の自由記載」では、良かった点の意見がいくつか上がっていた。国家試験勉強の助けになる基本的な事項の復習があった、実技で触り方などがわかった、また、最新の研究内容の紹介があり研究分野に進む人にはお勧めである、など。

◆今後に向けて

基本的なことから、実技、最新の研究まで、盛りだくさんな授業構成になっていて、学生には好評である。よって、同様の内容を継続していく。

科目名

76.理学療法特論Ⅳ（スポーツ障害理学療法）

担当教員

藤本 大介

専攻・配当年次

PT 3年

回答者数

15 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

当該科目の関心の一つは、実技であり、必修科目ではあまり取り扱わない内容を含んでおり、講義中にその内容を盛り込むことができ、履修者の満足度も一定程度あったように受け止めた。

本年度はテーピングの実施回数を前年度よりも1回増やし、テーピングの実技能力の習熟度の向上を狙ったが、学生のリアクションを見るとポジティブに受け止められているようである。

◆今後に向けて

今後は、教授する内容を重点化し、その内容を具体例とともに紹介する、または双方向性に議論できるような授業構成を検討したい。また、文献等も紹介し、講義中に教授することができなかった内容については、興味を持つ学生が講義外に学習を促進することができる配慮を検討したい。

科目名

77.生活環境論

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

33 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全ての項目で3.5以上の評価であり、授業としては大きな問題はなかったと考えられる。また多くの人が「目的意識をもって」「熱心に」取り組んだ(どちらかとも取り組んだを含む)と評価しているので、興味を持った学生が多かったと思う。

自由記載も、「たとえ話が分かりやすかった」「実体験の話が面白かった」という記載がいくつかあり、対象者の生活を環境面から支えるという理学療法の業務の一面が少しでも伝わったのだとしたら、とてもうれしく思う。

◆今後に向けて

自由記載で、「バリアフリーを意識して生活していなかったが、課題を通して身近なことだと気づけた」「障害がある人にとって、何が問題になり、どのような支援や介助が必要なのかを考えられた」「当たり前の日常生活の中にも、障害を持つと問題となる点が多くなることに気づかされた。環境づくりの大切さがわかった」という回答があった。講義ではもちろん知識を学んでもらうことは大切だと思うが、それと同じくらい大切なことに気づいてくれた人たちがいることは、この講義を行ってきた中で大変うれしいことである。

このアンケートに対する回答からは、大きな変更の必要性は感じられなかったので、今以上に興味を持ってもらえる授業内容になるよう、検討していきたい。

科目名

78. 予防理学療法実習

担当教員

加藤 真弓、臼井 晴信、濱田 光佑、齊藤 誠、山田 南欧美、
藤本 大介、宮津 真寿美

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

26名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

発達領域では限られた講義回数でこども園園児へ関わる準備を進める必要があり、学生の遂行能力に依存する側面がある。学生の主体性を引き出しつつ、こども園園児へ関わる準備を余裕をもって取り組めるように講義方法の修正が必要であると受け止めている。

介護予防領域は、地域の高齢者に対して、体力測定の実施、体操指導の補助や交流を図り、座学では得られない実践的活動から、コミュニケーション力や接遇・マナーの力を養う機会になったと思われる。発達領域と介護予防領域の区別はできないが、回答者全員が熱心に取り組んでいた。しかし、DPや授業の到達目標を理解し、意識的に取り組んでいた学生は5～6割程度であった。概ね良好と考えるが、何を身につけることができたかを、学生自身が説明できるためにはまだ十分とは言い難い。

◆今後に向けて

こども園園児へ関わる準備に余裕を持たせるため、講義回数の増回を視野に検討する。

介護予防領域では、授業初回だけではなく、実習前に到達目標を確認することや、また授業終了時には自己評価をしてもらうなど工夫が必要である。

科目名

79.地域理学療法学

担当教員

木村 菜穂子

専攻・配当年次

PT 2年

回答者数

39名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

アンケート結果より、「興味」や「理解」の項目については、3点台前半と若干低めだったが、「授業方法」や「教員」の項目に対する評価は概ね3点台後半と、講義として大きな問題はなかったと思う。ただ、その割には受講者の「知識習得」や「達成感」などが他の項目に対して低めであったことが、とても残念である。

また、私自身の経験(失敗も含め)や臨床での話を盛り込んだ講義スタイルは、比較的好意的に受け入れられていることが「興味が持てた」「おもしろかった」などといった自由記載からわかり、嬉しく思う。

◆今後に向けて

本科目は主に介護保険制度が中心となるため、なかなか興味を持ってない学生もいたと思う。そのため、学修の必要性を説明し、さらに介護保険に関連する内容として、社会人になるに当たり知っておくべき制度の説明なども加え、工夫をしている。アンケートの自由記載の中で、「一方的に話すスタイルは眠くなるから、誰かあてたりグループワークなどを導入するとよいのでは」と記載されていた。それも1つの手段であるため、そういった方法にあう部分については導入を考えていきたいと思う。

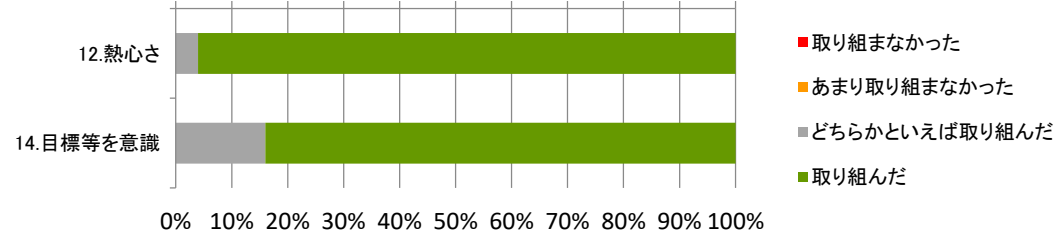
ただ、講義中に寝てしまうのは講義スタイルの問題、すなわち教員側の問題だけなのか？もちろん、今回記載された意見は前向きなものだと理解してはいるが、「環境＝他」のみの問題とせず、「皆さん自身＝自」の問題とも捉えるよう、ぜひ今後に向けた振り返りをし、より良い学習環境となると良いと思う。

科目名 **80.臨床実習 I (見学) [1PT]**

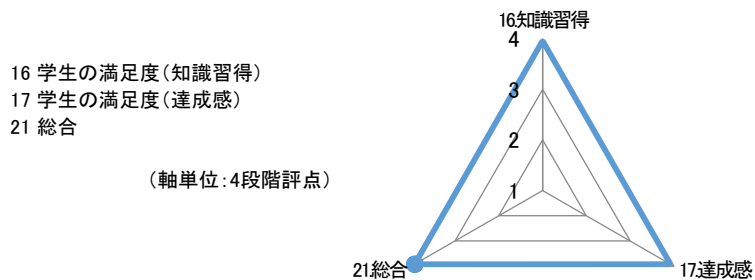
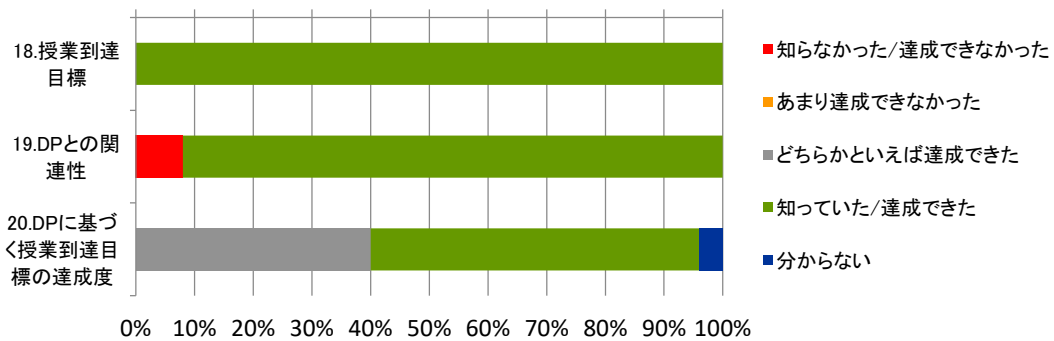
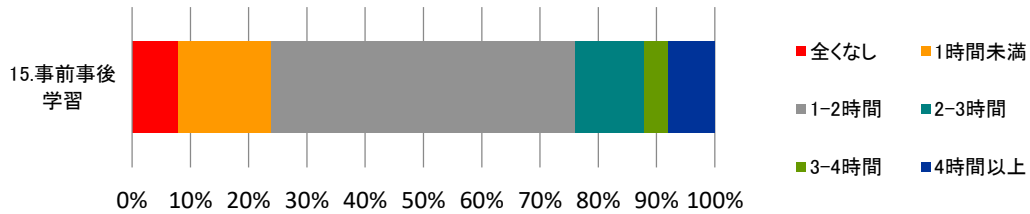
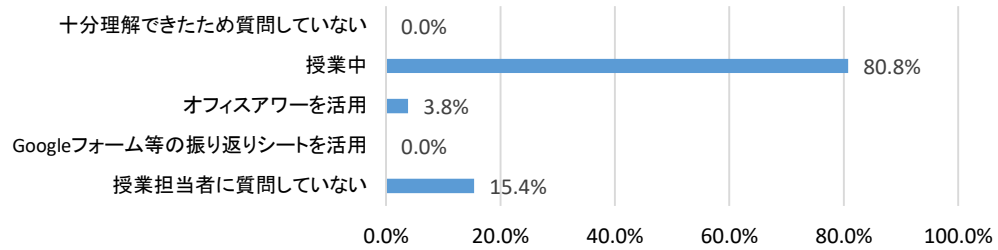
担当教員 松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、
白井 晴信、山田 南欧美、齋藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 1年 回答者数 25 名

◆集計データ結果について



13.質問

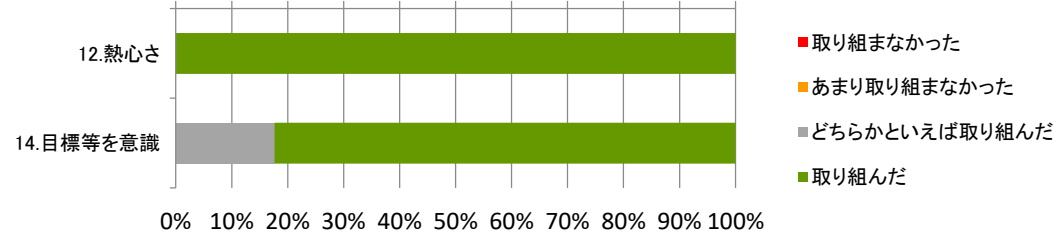


科目名 **81.臨床実習Ⅱ（地域） [1PT]**

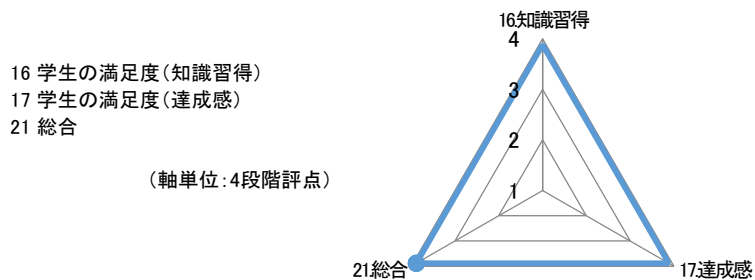
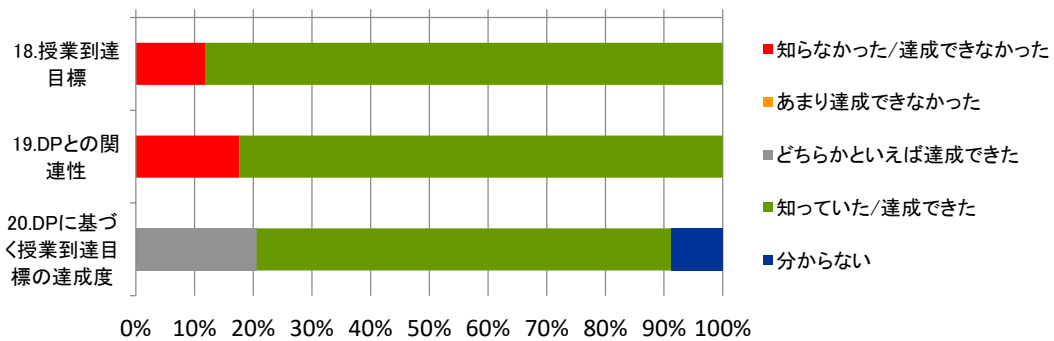
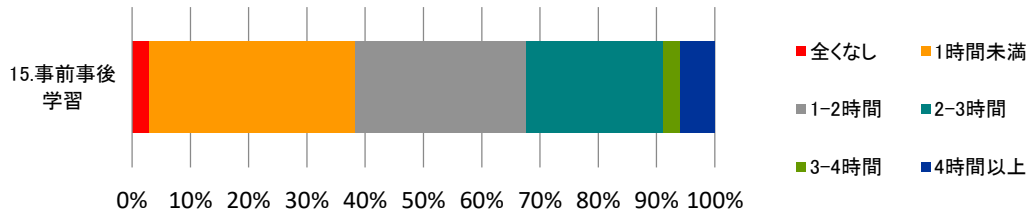
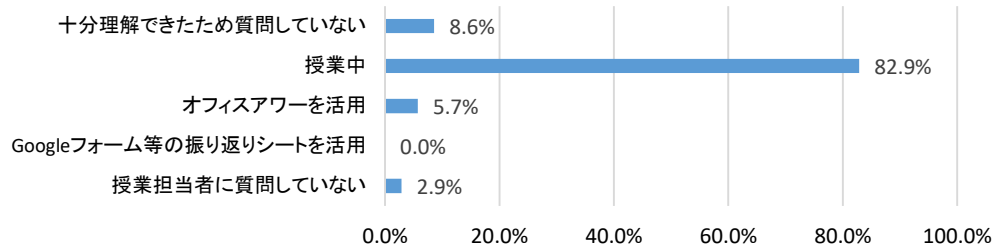
担当教員 松村 仁実、加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、
白井 晴信、山田 南欧美、齋藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 1年 回答者数 34名

◆集計データ結果について



13.質問

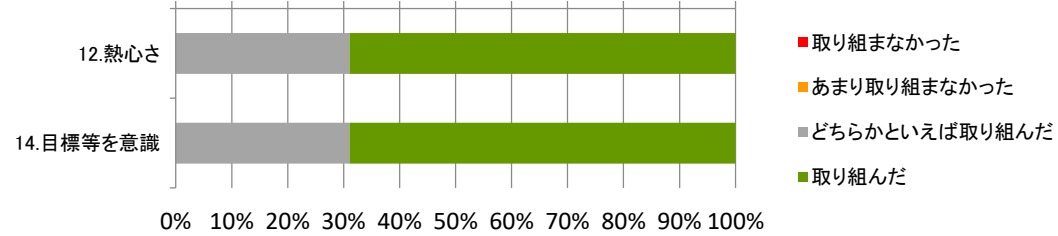


科目名 **82.臨床実習Ⅱ（地域） [3PT]**

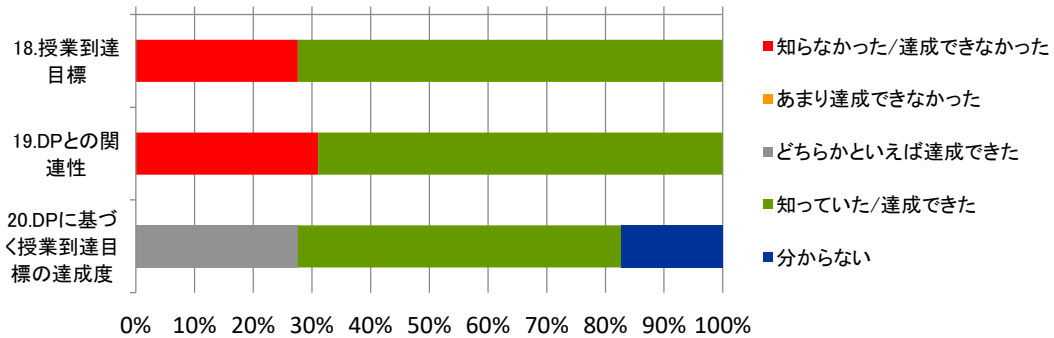
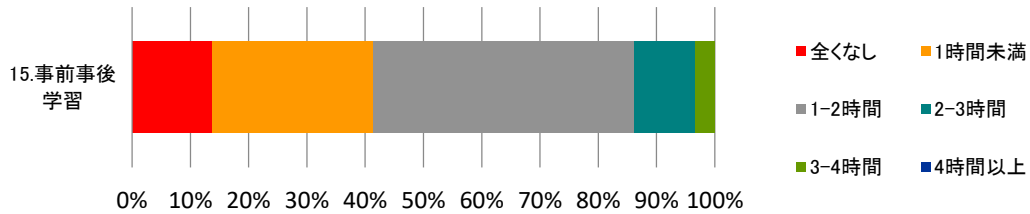
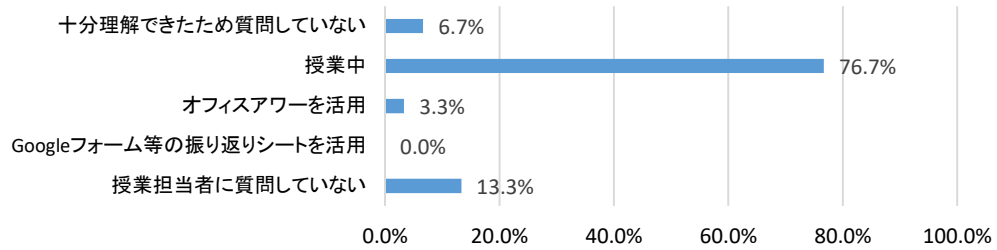
担当教員 加藤 真弓、宮津 真寿美、木村 菜穂子、松村 仁実、
 臼井 晴信、山田 南欧美、齋藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 29名

◆集計データ結果について

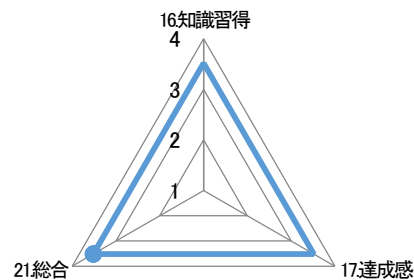


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
 17 学生の満足度(達成感)
 21 総合

(軸単位:4段階評点)

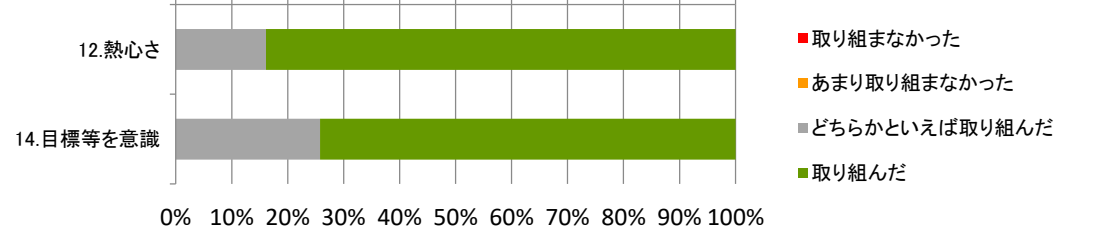


科目名 **83.臨床実習Ⅲ（評価） [3PT]**

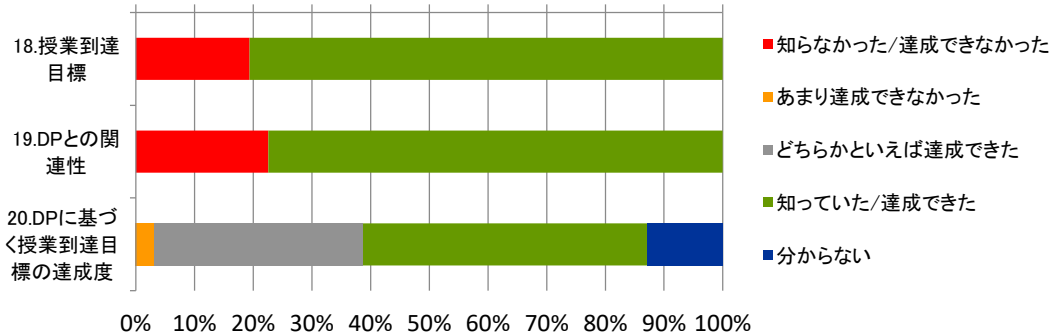
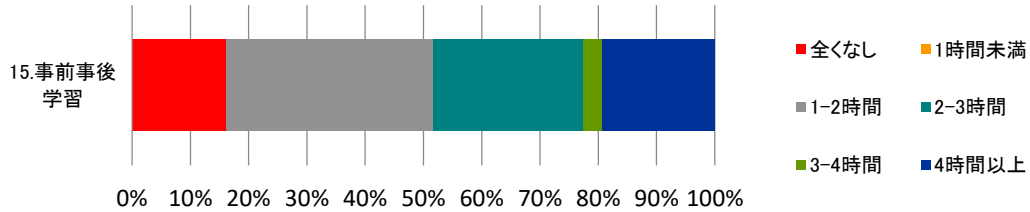
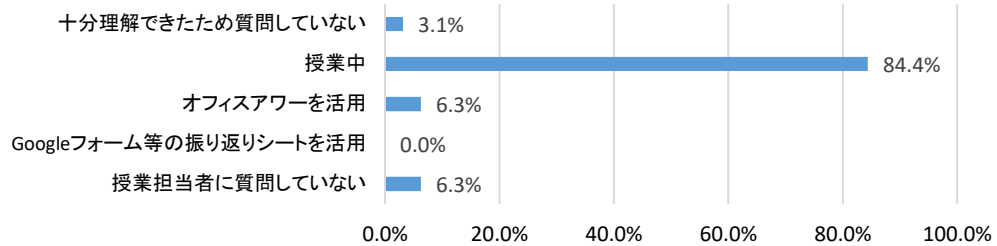
担当教員 加藤 真弓、松村 仁実、宮津 真寿美、木村 菜穂子、臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 31名

◆集計データ結果について

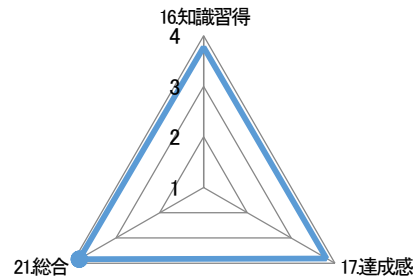


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)

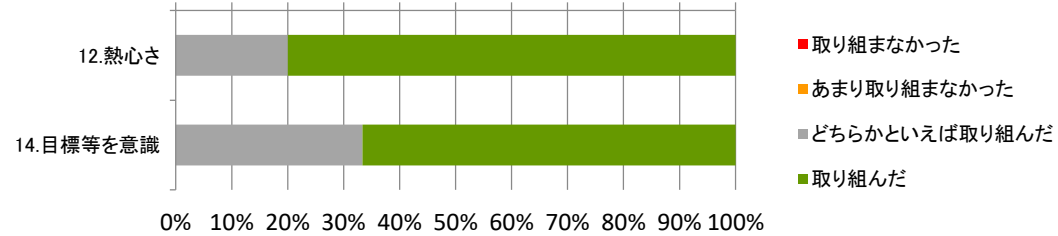


科目名 **84.臨床実習Ⅳ（総合1） [3PT]**

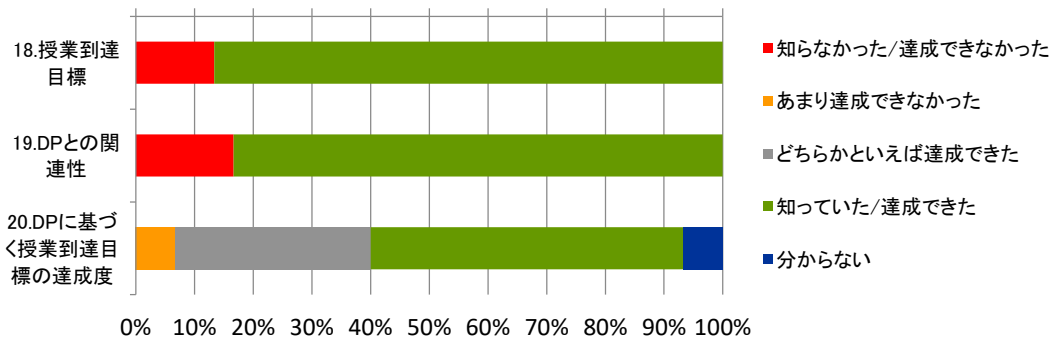
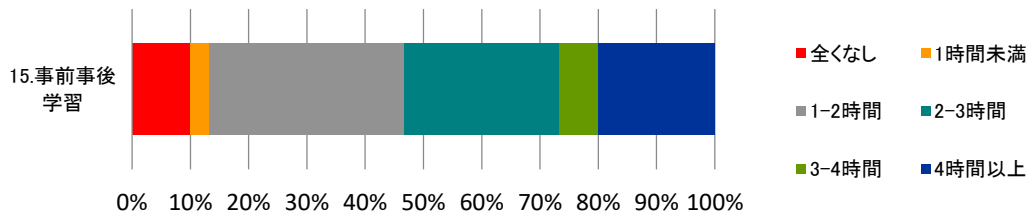
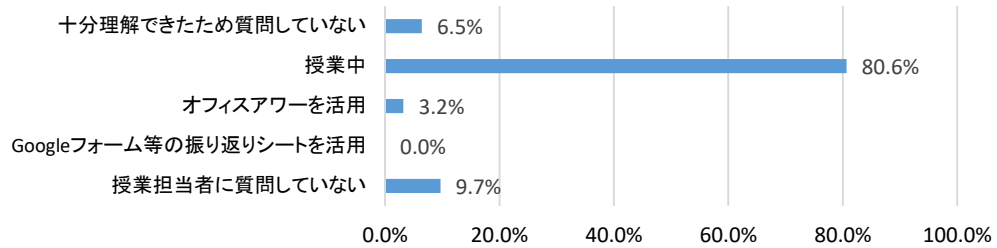
担当教員 加藤 真弓、松村 仁実、木村 菜穂子、宮津 真寿美、
白井 晴信、山田 南欧美、齋藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 30名

◆集計データ結果について

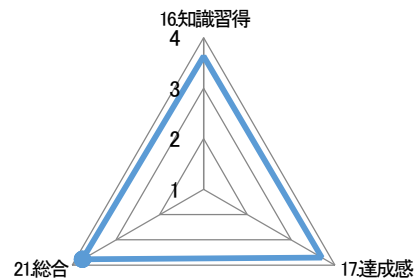


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)



科目名

85.臨床実習Ⅴ（総合2） [3PT]

担当教員

加藤 真弓、松村 仁実、木村 菜穂子、宮津 真寿美、
臼井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

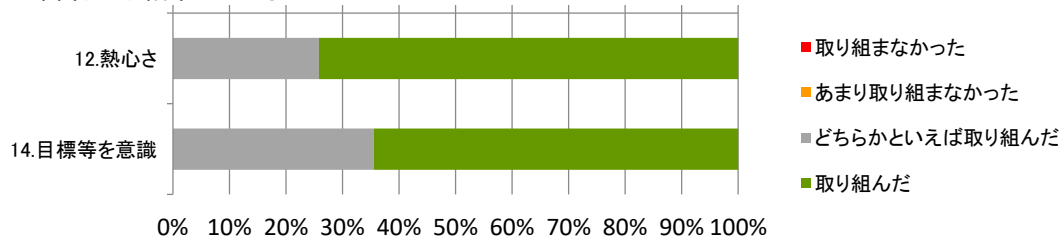
専攻・配当年次

PT 3年

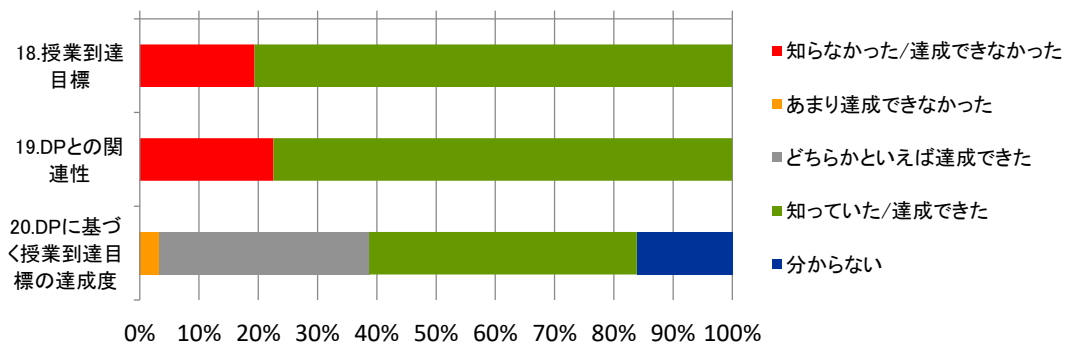
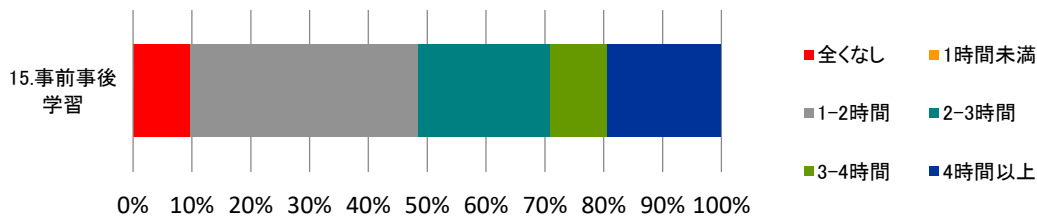
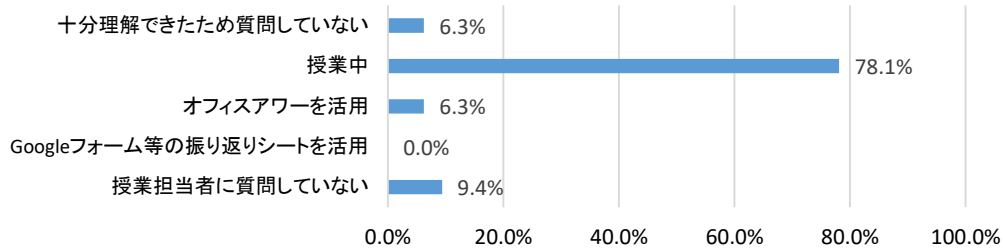
回答者数

31 名

◆集計データ結果について

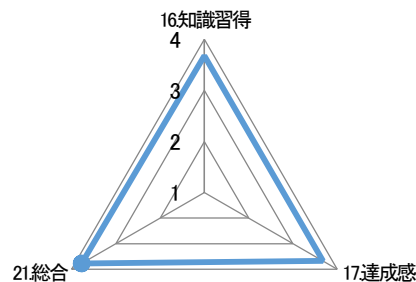


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)



科目名 **86.卒業研究 [3PT]**

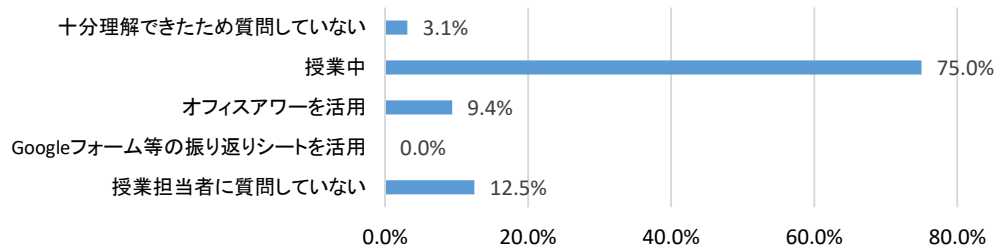
担当教員 加藤 真弓、松村 仁実、宮津 真寿美、木村 菜穂子、
白井 晴信、山田 南欧美、齊藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 31名

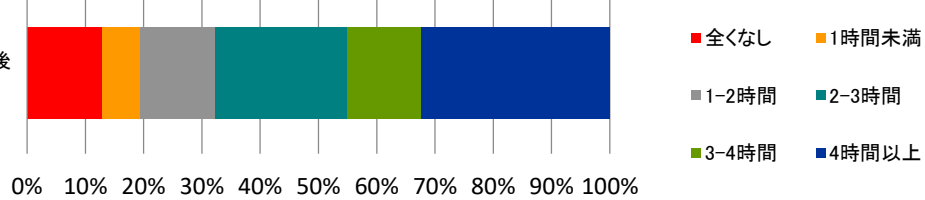
◆集計データ結果について



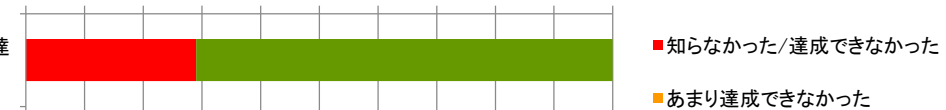
13.質問



15.事前事後学習



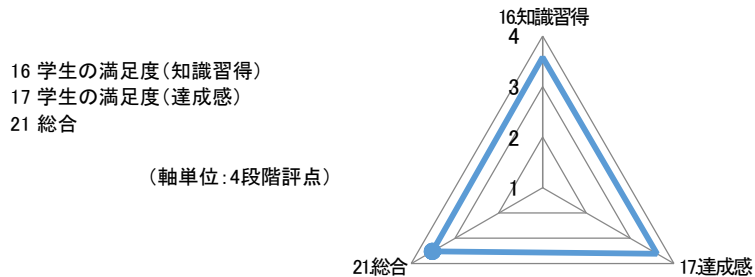
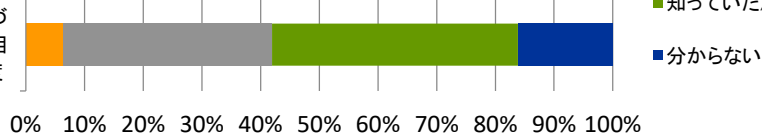
18.授業到達目標



19.DPとの関連性



20.DPに基づく授業到達目標の達成度

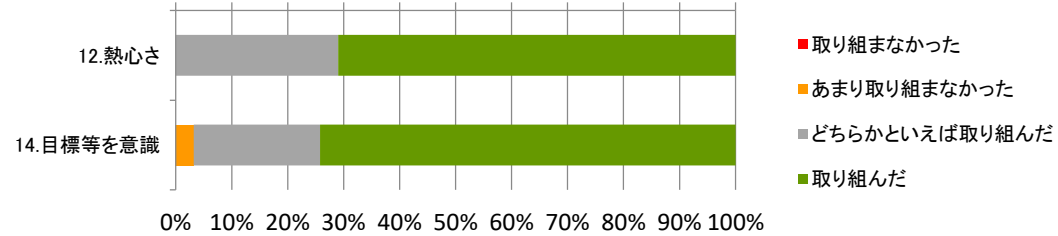


科目名 **87.総合演習 [3PT]**

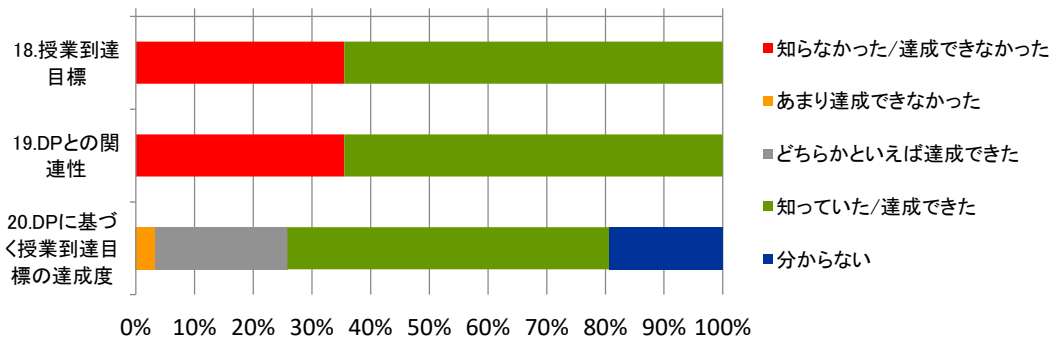
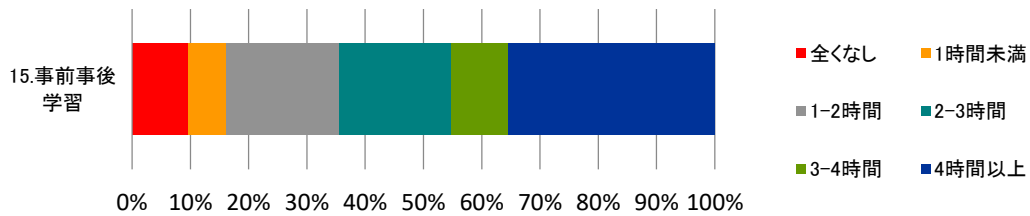
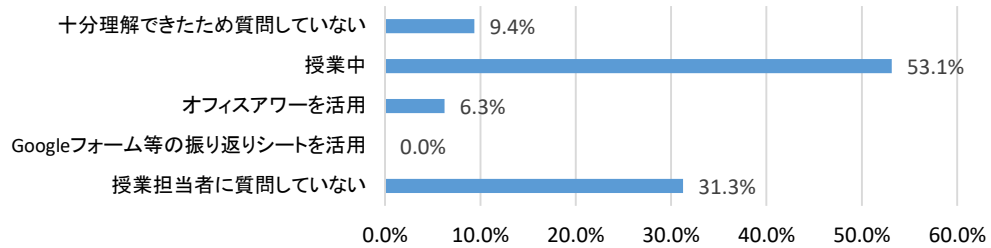
担当教員 加藤 真弓、松村 仁実、宮津 真寿美、杉山 成司、木村 菜穂子、
白井 晴信、山田 南欧美、齋藤 誠、濱田 光佑、藤本 大介

専攻・配当年次 PT 3年 回答者数 31 名

◆集計データ結果について

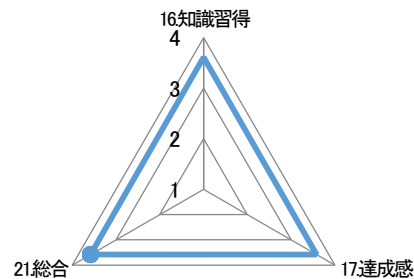


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)



科目名

88.作業療法概論

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

18名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全体的に高値で安心した。また、知識習得・興味・理解は若干低値であったものの、多くの者が事前事後学習や熱心さ、目標を意識した点において、良く取り組んでもらえたことは良かったように思う。知識習得・興味・理解については、この科目の特性上、作業療法の歴史の部分と確信するが、非常に小難しい部分であったためかと思われる。これらについて、皆で協力し、その中で縮約し、人に伝え、また、人が作成したものに目を通し理解するという工程を経験できたことは良いこととして受け止めている。作業療法のアイデンティティーの契機となることが私の目標でもあったので、歴史を全て覚えるというよりも理解することに意義があると考えた。

◆今後に向けて

上記の振り返りを踏まえ考えたところ、作業療法とはなにか、作業療法士としてのアイデンティティーについて、授業を通して皆が考える機会となった。自由記載にもあるように、作業療法士のイメージができたことは、1年生の前期という段階では多いに重要なことである。また、とても小難しく思ってしまう歴史の部分进行学习することは、先人のおかげで今の作業療法があることを知り、作業療法士となる上で重要であることも理解する機会となった。授業の進行や方法は毎年多く変化はつけておらず、その年々の学生の積極性によって促しを変化させているが、今年度の学生は全体的に積極的に取り組んでくれた。楽しいという言葉がいくつかあったが、引き続き、楽しいを沢山感じられるような授業としていきたい。

科目名

89.臨床運動学 [OT]

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

4名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

運動学をできるだけ臨床で活用できるイメージができるように、授業の構成を行った。回答数が少ないため、正しい評価とは言い難いが、総合で3.5と高い点数であった。それぞれの評価項も3.5～4と高い得点が得られた。内容として、起居動作から立ち上がり、座位の評価、バランス、移乗動作など、基本的な動作獲得とともに、臨床に必要な疾患別の動作指導を行った。できるだけ、家庭での学修時間負担を無くすために、授業内でフォームの入力ができるように配慮した。

◆今後に向けて

1年生では、疾患別の内容が把握しにくいと思う。授業内で動画を用いるなど、イメージしやすい工夫があると、より良い学修になるかと思われる。授業の構成は、作業療法士になるためには十分ではないが、必要最低限は学ぶことができていると思う。授業では、グループを中心に、ディスカッションしながら実技を行った。課題は時間内にフォームで提出できるように配慮したが、提出時間が短いかを確認し、今後の提出時間設定を行っていく。

科目名

90.基礎作業学

担当教員

松田 裕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

10名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生23名中10名(回答率:43.48%)の集計データ、学生の自由記載の結果を以下に記載する。集計データ(授業内容、授業方法、教員、学生の満足度など)は全ての項目で4段階評点中3.60であり、概ね目的は達成されたと考えられる。学生の受講態度についても、シラバスに記載されている「学習到達目標」を意識して学習に取り組んだと回答する学生が6割と例年と比較して増加した。一方で理解できない点などの質問については、授業担当者に質問していないと回答する学生が4割ほどであるため、毎授業のGoogleFormsでの振り返りを行う中で質問のしやすさについても検討することが必要だと考えられる。学生の自由記載では、前回の授業の振り返りや疑問点の共有、解説、実践的な取り組みに対し肯定的な記載が見られた。

◆今後に向けて

授業評価アンケートの回答率が受講生の半数であり、正確な検討は困難であるが、集計データ、学生の自由記載を概観する。本科目は1年次の前期開講科目であり、カリキュラムマップにおいても「基礎作業療法学」という作業療法を学ぶ上でのベースとなる科目の一つと言える。よって、作業療法の概念や生活行為の見方などについて実践を用いながら作業療法のイメージ作りを行っていきけるよう、今後も工夫をしていく必要があると考えられる。具体的には、学生同士のICTを活用した質疑応答や実践的な取り組みを踏まえた授業計画、運営を行っていく。

科目名

91.基礎作業学実習

担当教員

横山 剛、森下 章生、後藤 秀樹

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

6名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

木工の授業を受けていないのに木工の内容のテストを行うのは個人的に疑問を感じたという学生がおり、その学生が疑問に感じたのは仕方がないが、そもそも休職している教員に代わり授業を行っており、その旨も説明し理解を得ていると思っていたが、このような記載があり大変残念に思う。対象者にどのような背景があり、どうしてこのようになっているのかを作業療法士は評価し治療に向けて企画、実行していかなければならない職業であると思うが故に、大変残念に思う。自身が分からないからと、分からないままにしないで分かる努力に努めるのが本来の学習の姿であると思う時、大変残念な感想である。

◆今後に向けて

大変残念な感想があったことを思う時に、このような授業とはならないためにどのようにしなければならぬのかについてさらに企画を練らねばならない。質問票を利用するなど学生が質問、意見しやすい状況を作り出さねばならない。しかしながら指導を受ける姿勢に欠けるならばどのような状況を作り出しても、学生に不平や不満のようなものしか出てこないであろうと思う。目の前のことだけで一喜一憂する授業ではなく、その先を見据えて、学生が在籍する期間に一貫したものをもって関わり続けるようにしていく。

科目名

92.作業療法管理

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

31 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業の特性上、学生にとってはなかなか興味がわきにくい内容であったと思う。にもかかわらず、多くの学生が楽しかったと記載していることに安心した。ただし、達成感、興味、理解については工夫が必要である。

◆今後に向けて

医療管理は多岐にわたり、社会を経験していない学生にとっては少しハードルが高いと思われるが、身近なことに例えるなどすれば比較的理解しやすいとも言えるので、工夫をしながら楽しく学べるよう工夫していきたいと思う。配布レジュメへの図の活用についても今後検討し、できるだけイメージできるように努力していきたい。

科目名

93.作業療法倫理

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

30名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容としては学生が興味を持ちにくいものであるため、少しでも興味を持てるようにすることが必要な科目である考える。そのような科目的特性にもかかわらず、学生が真剣に授業に取り組まれた印象がある。自由記載にもあるとおり、難しいと感じる学生は多かったと思われる。その中でも、グループで積極的に良く議論されていた。

◆今後に向けて

アンケートでもあるように、グループワークで楽しく学ぶことができたという意見は多かったようだが、中には難しかったと答える学生もいた。プリント配布もセッションごとに配布するなど工夫をしていきたい。事例を中心としたが、できるだけイメージできるような事例を選択していきたいと思う。

自由記載に、文章の書き方についての説明とあったが、文章作成は一朝一夕で改善されることではないので、これは入学後から3年間での各教員による指導と学生の努力(意識)が必要と考えられるので、全体的な取り組みとして検討していきたい。

科目名

94.作業療法評価法

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

13 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全ての項目で3.5以上であり、概ね良い結果であると思われる。また、事前課題等を設定したことで回答者の約7割が1時間以上学習に取り組んでいたことも、本科目において自ら学ぶ姿勢を身につけることを狙いとしていた成果と考えられる。グループでの学習を主体として進めてきたが、講義の形式に対して肯定的な意見が多くあった。しかしながら、約半数が質問等していないという回答であったためその点は改善が必要である。

◆今後に向けて

講義形式は今年度大きく変更したが、概ね良いと思われるため継続する。一部課題の提示方法に配慮が必要な部分があったため、その点は改善していきたい。学生からの質問については、グループでの学習の中で学生同士の学び合いに満足し、教員への質問にまで至らなかったケースもあることが推察される。各人が正しく理解をしているか確認するためにも、教員と意見交換ができるような設計にしていきたい。

科目名

95.作業療法評価法実習 I

担当教員

渡邊 豊明、清水 一輝

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

4名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

1年生で学んだ作業療法評価法学を实践する科目である。ROMやMMTは、すべての検査の基本となり、難しい課題であったと思う。今回の評価では、各項目は3.5～3.75の得点で、総合では3.5の評価を受けた。評価者が4名と少ないため、信頼性に欠ける点はあるが、前向きに受け止める。

◆今後に向けて

学生の個別指導の充実と質問がしやすいことを考え、2人体制で授業を行っている。そのため、間違ったやり方など、タイムリーに指導を行っている。今回、指摘のあった部分は、その都度強調して説明しているが、再度、確認をいれるなど、臨機応変に対応していきたい。

科目名

96.作業療法評価法実習Ⅱ

担当教員

横山 剛、松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

19名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

レーダーチャートはすべて3点台であり学生から概ね良い評価が得られたと思う。自由記載ではフィードバックの時間帯を設けたことへの良い評価が挙げられている。「人を知る」ということは、自身の眼鏡のみで見ている自身の可能性に気づき、それが客観性をもって他者と共感し、共有できる、また自身のもの見方の癖を知り、修正していく作業であると考えられるから、とても難しい作業に取り組んでいたのは確かである。他者を知ること自身を知ることにつながっている理由はここにある。難しい、答えがない、と自由記載されているのはこの作業に取り組んでいた証であるのだと考えている。簡単に分かるような学習(作業)はそもそもこのような実習をしなくても分かるはずである。この授業であるからこそ学べるものがあつたというような記述があり、大変頼もしく思う。事前事後学習が「全くなし」と返答している学生が10～20%程いるが、授業時間外にもフィードバックの時間を設けていたので大変理解に苦しいものがある。

◆今後に向けて

「人を知る」ということが単なる情報の寄せ集めではなく、それを持った一人の人として統合して見られるようになることを主題として、本授業を開講している。学生にとってもなかなか大変な授業であるとは思いますが、そのように大変と思っている学生に我々教員が関わりを持ち、大変だと思っている学生について知ろうとしているのだと学生に理解されるための工夫がさらに必要かもしれない。それは学生が単にさせられている、といった体験にならないようにするためである。後期に他の授業でこの授業に続くものを設定しているので、その授業に確実につなげるための責任を果たす。またその他の授業においても主題としていることについて説明しながら、学生が単に丸暗記をすることを学習であると勘違いせずに、学生自身が自らの力となっていける学習の取り組みに協力する授業を展開する。

科目名

97.身体障害作業評価学

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

4名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての平均が3.7であり、概ねバランスの取れた評価であった。ただし、受講生21名中、回答者がわずか4名であり、データの信頼性が甚だ乏しく、全体の意見を反映しているとは言えない。

回答した学生については、全員が目標等を意識し(14)、熱心に取り組んだ(12)とのことであった。予習復習時間は全員が2時間未満と回答しているため、課題や小テストの時間に当てたと考えられる。

自由記載では「脳のイラストとかを用いて説明して下さったところがとても分かりやすかった」「授業でテスト対策についても説明していただけたのは良かった」との記述があり、教員が工夫した点は伝わったようである。

◆今後に向けて

本授業は、身体障害領域の作業療法を学ぶ、入門編の位置づけである。今までに学んだ解剖・生理学や運動学の知識が臨床でどのように繋がっていくかを学生は理解する必要があり、特に脳神経系に関する復習には時間を割いた。図や別途資料を用意したり、演習を交えたり、課題の中で作業療法との繋がりを考えてもらったり、小テストで基礎知識を復習したり、様々な方法を駆使して学生理解の促進を試みている。課題へのコメントには、学生の知的好奇心や向学心を引き出すようなことを加えるようにも心掛けている。

昨年度の授業評価レポートに基づき、筆記試験の記述能力の不十分さを課題として、授業中の学生間での情報の確認と共有の時間を増やした。今年度も、本アンケートの回答率が例年になく低く、受講生全体の様子を反映しているわけではないため反省点が見えづらいところではあるが、今後もこの点に着目しながら授業を構成していきたい。

科目名

98.精神障害作業評価学

担当教員

松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

11名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講生20名中11名(回答率:55.00%)の集計データ、学生の自由記載の結果を以下に記載する。集計データ(授業内容、授業方法、教員、学生の満足度など)は全ての項目で4段階評点中3.64であり、概ね目的は達成されたと考えられる。学生の受講態度についても全ての学生が熱心な取り組みやシラバスに記載されている「学習到達目標」を意識して学習に「取り組んだ」、「どちらかと言えば取り組んだ」と回答していた。一方で学生の受講態度の「事前事後学習」については、6割の学生が全くなしと回答しているため、事前事後学習課題の具体的な提示が必要となると考えられる。自由記載では、ゲストスピーカーの臨床場面での教示や疑問点の共有、解説に対し肯定的な意見が見られた。

◆今後に向けて

授業評価アンケートの回答率が受講生の半数であり、正確な検討は困難であるが、集計データ、学生の自由記載を概観する。本科目は精神領域の導入科目であり、精神医療の歴史的背景なども踏まえた講義を行っており、精神医療の背景やスティグマなど正解のない問いに対峙していくことが求められる。よって、多様な立場にある者とのディスカッションやゲストスピーカー、ピアサポーターからの講義など実践的な取り組みを用いた授業計画を立てることが必要となると考えられる。また、精神科作業療法の評価として症例問題を行う際には、グループディスカッションなどを用い、理解を深められるよう工夫を行う必要があると考えられる。

科目名

99.発達障害作業評価学

担当教員

小山 隆幸

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

13名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合評価は3.69である。感染症対策に配慮しながら全て対面授業で行った。授業内容項目の「理解」に対して小児分野をよりイメージしやすくするために、教科書と資料だけでなく、実際に動いたり、動画を見せたりした事でイメージのしやすさにつながったと考える。今後とくに「興味」の向上を目指したい。事前事後学習は学生の約30%が取り組んでいる。授業開始時に小テストを実施しており、Google Formsで質問を受け付け、適時回答を実施した。目標等を意識して取り組んでいる学生が約50%である。適時授業内容の振り返りを行い「知識習得」「達成感」につなげたいと考える。実施内容については、シラバスに記載されている内容で進めていた。実践形式を行ったことで理解が深まったコメントが見られた。症状を理解する上で実際に体を動かしながら取り組んだ事で理解が深まったようである。また、時折動画を活用した事も有効であったと考える。今後も実践形式を継続して、満足感や達成感を増やせるように努めていきたい。今回の集計データを参考にして、次年度に活かしていきたい。

◆今後に向けて

今後に向けて、教科書と資料に加えて小児のイメージがしやすいように適時オープンな教育リソースの活用を継続したいと考える。授業テーマ毎の目標を各講義開始時に共有するように取り組みたい。授業内容は評価方法の基礎理解を深めていきながら、疾患別に応用していけるように知識向上に努めていきたい。資料の配布や小テストの実施は、学習機会を作る時間につながっている事が考えられるため、今後も継続して実施していく予定である。講義について分からない点など質問できる時間を作り、こちらから問いかけ等を行い、授業理解を高めたいと考える。またGoogle Formsを通して小テスト、振り返りを継続して取り組み、知識定着と達成感を向上させていきたいと考える。

科目名

100.作業療法研究法

担当教員

廣渡 洋史、横山 剛、加藤 真夕美、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉 由之、田中 雅章

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

9名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計結果をみると概ね高値であったので安心している。特に、研究法という言葉からハードルが高いとか、初めから難しいといった声をよく聞くが、本結果から概ね伝えたいことは伝えられたように感じる。若干低値であった行為注意については、注意する必要性も無かった為分析しきれない。知識習得や達成感については、研究の種類や統計学的な難しさ、今後取り組む卒業研究への不安さからくるものであろうと推察する。自由記載ではネガティブな記載はなく、興味・関心を促しているような内容であった。特に各教員の研究紹介は、各種領域の研究がどんなものであるかを知る上で、学生諸君にとっては良い評価が得られているようである。

◆今後に向けて

上記の振り返りを踏まえ考えたところ、大きな改善や変更は必要ないと思われる。本科目は比較的、教授する者が多く、広範囲にわたって講義する為、研究とは何かという基礎から、文献検索の仕方、統計手法や発表の仕方までじっくりと学ぶことができる。但し、基本的な事項を重点としている為、応用的な部分にまで至らない点は否めないが、卒業研究等における実践においてその応用を期待したい。

科目名

101.作業治療学理論

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

13 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

各項目の回答ではおおよそ良い評価を得ているが、知識習得と達成感で低い数値となっていた。また、自由記載においても、グループでの学習によって学びが深められたという意見とともに、グループ主体だと理解が深められない部分があったとの意見もあったことから、グループ学習を主体とし教員からの知識の伝達が少なくなっていることが影響していると考えられる。

◆今後に向けて

グループでの学習は今後も継続して実施していく。本科目で扱う作業療法理論は難解なものが多く、限られた時間の中で理解できるのはごく一部である。その中で、学生主体で学んだことに対して、教員がその進捗状況を確認し、指導する機会を増やしていくことで学生の理解度を高めていきたい。

科目名

102.作業療法治療学実習

担当教員

渡邊 豊明、廣渡 洋史、加藤 真夕美、外倉 由之、横山 剛、松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

16 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての項目が3.5以上で、総合点は3.69と高い得点であった。動画を視聴し、イメージを持ってもらい、実践を行う構成で授業を行ってきた。最初はペアで、与えられた検査内容を実践し、教員は学生が正確に検査ができているか確認するとともに、しっかり質問できる時間を持った。その後は、各グループで各役割に分かれて、本番さながらの実践を行った。実践後は、グループ内で良かったところや修正すべきところの分かち合いを行った。これらのことから、比較的高い得点をえることができたと思われる。

◆今後に向けて

動画を視聴し、決められた項目を実践する授業の構成となっている。応用性に欠ける点があるため、授業の後半では実際の臨床の場で実践出来る方法を知る時間を作った。基本的な部分だけでは臨床で十分対応できないため、各回の授業では、応用の問題を提示し、検討しながら実施することで、マニュアル通りの手法だけでなく、応用的な方法も獲得できるように授業を進めていきたい。

科目名

103.身体障害作業治療学 I

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

14 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

知識習得・達成感について、例年よりも低値であり、それ以外に関しては概ね高値であった。例年よりも知識習得・達成感が低値である印象だが、授業の仕方に大きな変更はなかった中での結果である。自由記載では、概ね良いことが記載されているが、難しかったという意見が少数見受けられた。質問に対して分かりやすく回答すること、実物を触って理解させること、図や絵、写真などで伝えること等は理解を深める上で一定の評価が見られた。本科目では、骨折他各種疾患を網羅する点、その上でハンドセラピーを伝えていくという点では学生にとって難しいという印象に至ったのだろうと推察する。

◆今後に向けて

上記の振り返りとして、例年と同じ授業をしているが、経験上、当該学生の積極性においては、非常に乏しい点があり、投げかけに対して思いの表出がほとんどないが多かった。その点では、とてもやり辛さがあったというのが正直な印象である。よって、私の力不足ではあるが、他教員からも同様な話は良く聞く内容であるため、一緒に授業に参加する姿勢を学生諸君にも期待したい。上記にも記載したが、本科目の中で取り扱う疾患の多さ故に余裕を持った授業ができない可能性がある。よって、代表疾患に絞っていくこと等、今後検討していくこととしたい。

科目名

104.身体障害作業治療学Ⅱ

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

8名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は、中枢から難病など幅広く、非常に難しいと思われた。そのため、毎回、授業アンケートや確認問題を実施した。授業アンケートでは、必ず質問のあったことを回答し、確認問題では、定着率を把握した。授業の構成も、前半は座学中心、後半は、その知識を拡張した事例問題によるグループワークを中心に進めた。その結果、総合で3.88と高い数値を得ることができた。

◆今後に向けて

難しい授業であるが、できるだけ分かりやすい工夫を取り入れ、さらに理解しやすい授業にしていきたい。今回良かった、授業評価アンケート・確認問題・グループワークの形式は維持させていきたい。また、実習で知識を活かすことができるように、リハビリで活用できる部分をしっかりと取り入れていきたい。

科目名

105.身体障害作業治療学実習

担当教員

外倉 由之、長井 多美子

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

12名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.83であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生や質問をできている学生が回答でみられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

しかし、事前・事後学習をしていないと回答した学生が多くみられた。そのため、各授業で予習・復習に取り組みやすい課題や説明する時間を設けていく必要性を感じた。学生の意見としては、レポートのフィードバックが実習につながりそう、吸引の授業が面白かったなどの意見があり、今後も学生が理解しやすい実習となるよう講義を見直していきたい。

◆今後に向けて

今後も、学生が主体的に取り組める形での講義を継続していきたい。しかし、学生の事前・事後学習が不十分であったため、必要な時間が確保できるような課題設定や説明をしていき、より知識が定着できるよう工夫をしていきたい。

科目名

106.精神障害作業治療学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

11 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

とてもポジティブな感想があるが、通り一遍の授業としないで今後もこのような学習を継続して欲しいと願う。機械的な丸暗記の学習では到底臨床では役立たないと思うからである。コミュニケーションが大切であると知っていながら、グループワークは苦手、やりたくない、という意見を聞いたことがあるが、そもそも何のためのコミュニケーションであるか、学習であるかについてまずは理解して欲しいと願う。楽しかったか否かなどは、最終的に学生がどのようなスタンスでその授業を受講したかによるもので、外の他のものにだけに依存していないことをわきまえるべきであると思う。

◆今後に向けて

学生にうける授業であったかなどは関係なく、必要なことを必要なこととして授業を行っていくつもりである。

科目名

107.精神障害作業治療学実習

担当教員

横山 剛、松田 裕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

14 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

学生一人一人から報告を受けてフィードバックする時間を設けたことで私自身も学生もより理解が進んでいたのだと思う。ただこのようなフィードバックの時間を設けなければ学生から報告や質問がなかなか出てはこないことを考えるとき、また学生の自律的な学習を視野に入れて考えるとき、与えられたものをただ咀嚼しているのみではこのレベルにとどまるのであろうと思われる。この授業での学びは、この授業の単位がもらえたから良かった、というレベルではなく、その先の自身を方向づけていくものとなることを期待している。

◆今後に向けて

学生にうける授業であったかなどは関係なく、必要なことを必要なこととして授業を行っていくつもりである。

科目名

108.発達障害作業治療学

担当教員

小山 隆幸

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

13名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合評価は3.6となった。各項目3前後の評価であった。感染症対策を行い対面授業に取り組んだ。「授業到達目標」、「DPとの関連性」では、知っていた/達成できたが100%であった。授業到達目標を把握する、学生と共有する機会を意識して取り組めた。

予習時間や復習時間について、授業開始時に前回講義内容の復習で小テストを実施しており、約40%の学生が1時間未満の時間を予習や復習に使っていた。学生の意識では、目標を持って取り組んでいる学生が大半を占めているが、質問をしていない学生が約50%だった。GoogleFormsで質問を受け付ける方法も取り組んだ。講義に加えて、グループワークを取り入れた。「グループワークがあつてより理解が深まった」、「発達疾患に対してOTとしてどんなアプローチをしていくか理解が出来た」など前向きなコメントが見られた。事例を通して学生同士の多様な視点を共有するように取り組んだ事で理解が深まったようである。

◆今後に向けて

講義中のグループワークは学生同士で様々な意見を知る機会につながっている事が考えられる。グループワークに関しては、取り組む前に目的を説明し、把握した上で取り組む事で学生の授業達成度の向上に努める。グループワークでは実例を交えながらフィードバックして治療やリハビリプログラムの考え方について理解を深めるよう努める。

また、ねらいや目標などを説明する時間を設けて授業目標を学生が知る機会を増やす。講義について分からない点などに関して質問できる時間をつくり、理解を高める工夫をする。小テストでは内容を振り返る良い機会となる。回答の解説を実施することで達成感の向上に努める。各授業で到達目標を学生と共有し、授業満足度の向上に努める。

科目名

109.発達障害作業治療学実習

担当教員

松田 裕美、清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

16 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

各項目の回答は良い評価を得ており、授業への取り組みや授業到達目標についても多くの学生が良い回答をしている。自由記載では、実際に園児と関わることで得られた学びについて肯定的な回答がある一方で、年間を通してグループで授業を運営していくため、グループで起こる学生同士の課題に対する意見もあった。

◆今後に向けて

来年度も同じ形での授業を継続して実施する。学生グループにおける課題に対しては、グループで課題に取り組む目的やそこから得られる学習効果について丁寧な説明を行い、学生が目的の達成に向けて一致していけるような枠組みを作っていきたい。

科目名

110.高齢期作業療法学

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

12名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての平均が3.75以上であり、概ねバランスのとれた評価であった。自身の取り組みについては、すべての学生が質問12,14に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。事前事後学習は、すべての学生が2時間未満であり、25%の学生がゼロと答えていた。自宅課題の提出状況に不備はなかったため、課題遂行時間をこの回答に含めなかった学生が多いようである。自由記載では、「グループの交流の時間が多くあり、自分では気づかなかった視点を授業時間内に気づけるため学びが深まった」や「個人課題プラス授業を行うことで、理解しやすかった」という意見が複数あり、グループワークの活用と授業後の課題が、多くの学生にとって授業内容の理解に役立ったことが伺えた。

◆今後に向けて

本科目を受け持って2年目である。①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作る ②グループ演習で、学生自身が問いを立て、根拠に基づいて能動的な知識を探索する機会を増やす ③調べたことを、他者とすり合わせつつ、短時間の中で他者にわかりやすく報告するという経験を積む の3点を重視した。①は、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②③については、臨床での実践を念頭に置き、日々更新される情報を正確な情報源から探索し、他者とすり合わせるという経験の積み重ねの大切さを学生に理解してもらうことを意識して毎回の授業を組み立てた。②③が表面的になることが昨年度の課題だったため、今年度は、グループの代表意見を簡潔にまとめて報告してもらったり、教員が全体に向けて各グループの成果にコメントしたりと、共有方法を工夫した。レポートや試験回答からは、学生が個々に熟考し表出しようとする姿勢を垣間見ることができた。今後は、この部分の効果測定方法を更に検討していきたい。

科目名

111.日常生活作業学Ⅰ

担当教員

外倉 由之

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

10名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.70であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。集計で良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

学生の自由記載からは、教科書だけでなく、補足的なプリントや実際の現場で使用している自助具を紹介し、体験することで学生が興味を持つことにつながったと思われる。本科目は作業療法士にとって重要な概念である日常生活活動の基礎を作業療法の視点から理解することを目的としており、今年度も学生の理解を深めるため随時演習を用いたことが自由記載に反映されていたため、今後も演習を活用していきたい。

◆今後に向けて

今後も、学生が主体的に取り組める形での講義を継続していきたい。しかし、質問の少なさがあったため、各授業で振り返りシートや質問できる環境を設けていく必要性を感じた。授業到達目標を知らない学生もみられたため、授業毎に到達目標を提示するだけでなく、意識できるような授業を実践していきたい。

科目名

112.日常生活作業学Ⅱ

担当教員

清水 一輝

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

11名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね3.5以上の評価であったが、理解、知識習得、達成感の項目で3.5を下回っていた。本科目はグループ学習を主体としてきたが、課題の設定の不十分さがあった可能性がある。また、やや複雑な日常生活の評価手法を学ぶため、その知識の提供が不十分になってしまった可能性もある。約半数で、予習復習を全くしていない、質問をしていないという回答があったため、その点においても、理解や知識習得の差が生じた可能性がある。

◆今後に向けて

本科目では作業療法において必須となる各種評価、生活行為向上マネジメントを学んでいるため、学習内容は継続して実施していきたい。おそらく初めて事例を通じて作業療法を学ぶ機会となるため、より丁寧な課題を設定し段階的に学んでいけるような構成に改善していきたい。また、不明な部分は教員に質問しやすくできるよう、振り返りシートなどの導入も検討していきたい。

科目名

113.日常生活作業学実習

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

20名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての項目で平均が3.7以上であり、バランスの良い評価であった。本科目では①ADL支援に関する基本的な技術をその場で修正しながら徹底的に身に付けてもらう、②各疾患の特性によるADL上の特徴を自身で調べたり体験したりしながら身をもって理解してもらう、③ゲストボランティアに対しインタビュー体験を行うことで、対象者評価に向けての準備を整える という、臨床実習に向かうための技術獲得の場という位置づけを重視している。随時、技能評価試験を行い、その都度フィードバックしているためか、12,14は多くの学生が「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」を選択した。自由記載では「実際に車椅子を使ったり、移乗の動作をする事で、分かりやすく、身になるような授業であった」「今日何をやるのかのレジュメがあり進めやすかった、実際に疾患を持っている方の動画を視聴したため分かりやすかった」「実技のテストでは1回1回分からない点や間違っている点を何度も実際に提示してくれたため、とても分かりやすかった」など、授業の構成・方法・教員の教授態度に関する肯定的意見が挙げられた。

◆今後に向けて

令和4年度から清須市民げんき大学の卒業生へのインタビュー体験を取り入れており、授業後のレポート課題では社会で活躍されている高齢者から直接話を聞くことで「人が社会の中で生活するとは」ということへの気づきや、これまでの生活歴との関連性など多くのことの繋がりを意識できた学生が多かったことが伺えた。しかし授業評価アンケートに一切その記載はなかった。授業終了からアンケートまで期間が空いたことで、本科目との結びつきが弱まったとすると残念である。今後は更に作業療法士としての役割への気づきに繋がるよう、授業を発展させていく。また自由記載の中には「実技試験を受けるタイミングが遅いと、次の演習が不十分になってしまうことが多くやりづらいときがあった」との意見があり、学生自身の時間の使い方に教員が気を配る必要のある学生がいることを把握した。これまでは挙げられなかった意見であるが、今後はどのような状況かを丁寧に見極めていきたい。

科目名

114.高次脳障害作業治療学

担当教員

加藤 真夕美

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

14名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての平均が3.71以上であり、おおむねバランスのとれた評価であった。本科目の授業準備や進行で工夫していることは、①わかりやすく、後に活用できるレジュメを作ること ②演習を取り入れること ③関連論文を学生一人一人に探してもらうこと の3点である。①については、臨床実習や国家試験を念頭に置き、ポイントをわかりやすく示すことを意識した。また②についても同様に、臨床実習や国家試験で体験を生かせるよう、できる限り多くの演習を限られた時間の中で盛り込んだ。

学生の取り組みについてはすべての学生が質問12,14に「取り組んだ」あるいは「どちらかといえば取り組んだ」と回答していた。自由記載では「レジュメが分かりやすく、グループで話し合う時間が多かったため、理解に繋げやすかった点が良かった」「高次脳機能障害と聞くと難しいイメージがあったが、実際の評価を体験することで理解することが出来た」「みんなで話す時間があり、意見を聞くことが出来、新しい考えを知ることが出来た」など、教員の工夫を学生が肯定的に受け取ってくれたと感じることができた。

◆今後に向けて

毎年、高次脳機能の領域に対し、「難しいからイヤだ」ではなく「難しいからこそおもしろい」と思ってもらえるような、高次脳機能の入門編としての位置づけの授業が展開できたらと思いい、授業を進めている。昨年度に続き、今年度も改善要望の意見は挙がらなかった。回答していない学生が3割ほどおり、回答した学生の多くが学習意欲が高いと考えられるため、次年度に向けての教員の反省材料にすることは難しい。一方で、「高次脳に興味をわいた」との自由記載もあり、担当教員としては嬉しいことであった。今後も学生の興味を引き出すような仕掛けを考えていきたい。

科目名

115.義肢装具学 [OT]

担当教員

廣渡 洋史

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

12 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

結果では良い内容で安心している。実際に触る、動かしてみる、絵を描く、パーツを覚えてその役割を知るといった一連の流れで義肢装具を理解してもらえたと思う。ただ、授業数の時間的制約もあり、上肢装具やチェックアウトに時間が割かれ、他の部分は薄くなってしまっているため、自習時間も含め、少しずつ改善していきたい。

◆今後に向けて

授業数の時間的制約において、大きな変更はできず、臨床的・国家試験という部分で重要になってくるところを重点にして授業を行い、細かな部分でマイナーチェンジしていきたい。どうしても、臨床では目にすることのない義手・装具であり、国家試験の際や、卒業後において思い出せるような工夫をしていきたい。義手においては上肢にのみ偏らないこと、装具においては、義肢装具士が作る物、作業療法士が作る物の分けとメリット等を理解してもらえるよう努力していきたい。

科目名

116.義肢装具学実習 [OT]

担当教員

廣渡 洋史、小森 健司

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

15 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

装具作製という学生にとっては難しい作業に対して、積極的に取り組んでいた印象である。結果についても概ね良い評価が多く安心している。熱可塑性樹脂について2種類のものを使用したため、その適用に苦労したかも知れない。楽しく失敗しながら学んでいることに意義があると思う。

◆今後に向けて

今回より、2種類の熱可塑性樹脂を使用し、2名の教員で授業を行ったが、次回も踏襲して行っていく予定である。整形系以外にも中枢系へ対応できる内容は他学ではあまりない試みであり、臨床における治療の1手段として覚えてもらえると嬉しい。次回も、今回と同じく、楽しく、失敗しながら学んでいける環境を提供したい。

科目名

117.リハビリテーション関連機器

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

16名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての項目で3.5以上であり、総合点は3.63と高い得点であった。リハビリテーションで必要な自助具や福祉用具をわかりやすく提示し、セルフケアや移乗、移動の項目に分けるだけでなく、疾患別でも理解を深める構成で授業を進めてきた。後半の住宅改修については、各自の自宅を住宅改修する課題を提示し、より多くの福祉用具を散見し、必要に応じた物の選択ができたのではないかと考える。

◆今後に向けて

作業療法において、自助具や福祉用具の導入は重要である。その人の生活の自立を助け、活動を促進するものである。それぞれの特性と物品による違いを把握し、適時、提案できるように考える時間をとって授業を進めていきたい。住宅改修については、イメージがつきにくい、ケースの症例設定で、自宅で生活できるように考えることは、とても大事なことでありと思われる。そして、グループ発表を行うことで、情報の共有ができ、知識の幅が広がると思われる。

科目名

118.地域作業療法学

担当教員

渡邊 豊明

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

8名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

地域作業療法学は、今後、作業療法士として必要な知識やケースについて、グループワークを中心に授業を進めてきた。国家試験形式で質問を提示し、学習の理解度を確認しながら進めた。終わりには、授業アンケートを実施し、質問できる環境を整え、授業では、その質問に回答するように努めた。地域の本質を伝えることが難しい科目であったが、総合で3.75と高い評価を得ることができた。

◆今後に向けて

年々変化する状況を把握し、学生にタイムリーな情報を提供できるように常に情報をキャッチしながら授業に取り組んでいく。引き続き、理解度の確認テストを実施し、また、授業アンケートにより質問しやすい環境を作って、回答を行っていく授業は座学ではなく、できるだけ考えるケースを出題し、グループワークで学生が考える講義形式で進めていきたい。

科目名

119.地域作業療法学実習 [2年]

担当教員

清水 一輝、外倉 由之、水口 和代、山田 隆司

専攻・配当年次

OT 2年

回答者数

13 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

概ね良い結果であったが、知識習得と達成感で低値であった。自由記載では、実際に対象者と関わることや当事者の話を聞くことで、実際的な学びができたことに対する肯定的な意見が多かった。しかしながら、高齢者との関わりはこの科目だけでその技術を身につけられるものではないため、十分な知識習得や達成感につながらなかったと考えられる。

◆今後に向けて

今後も同じ形で授業を継続していく。実習における作業療法士としての技術態度に関しては、この科目でどの程度までの技術態度の獲得を目標とするのかを明示し、それ以上の学びについては臨床実習とも関連付けて捉えられるように学生へ説明をしていく。

科目名

120.就労支援学

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT 3年

回答者数

31 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

機械的な丸暗記を進めるような授業ではなかったのだと認識されていると思うが、作業療法士になるということが、ただ単に単位を取得して卒業し免許を持てば良いということではないことを知って欲しい。自身が作業療法士になるというこれまでのプロセスを振り返るとともに今後何に向かって何をしていくのか、現実的に歩みを進めていくべきであろうと思うからである。そういった意味で自身の職業決定の物語を作成していただいた。職業的アイデンティティを含めてご自身が確立されていくことを願っている。

◆今後に向けて

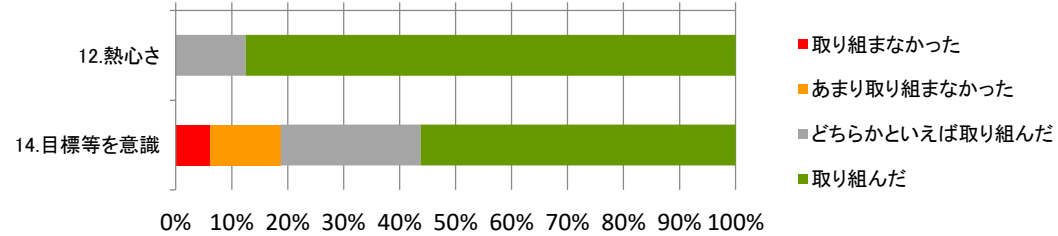
学生にうける授業であったかなどは関係なく、必要なことを必要なこととして授業を行っていくつもりである。

科目名	121.臨床実習 I (見学) [OT]
-----	-----------------------------

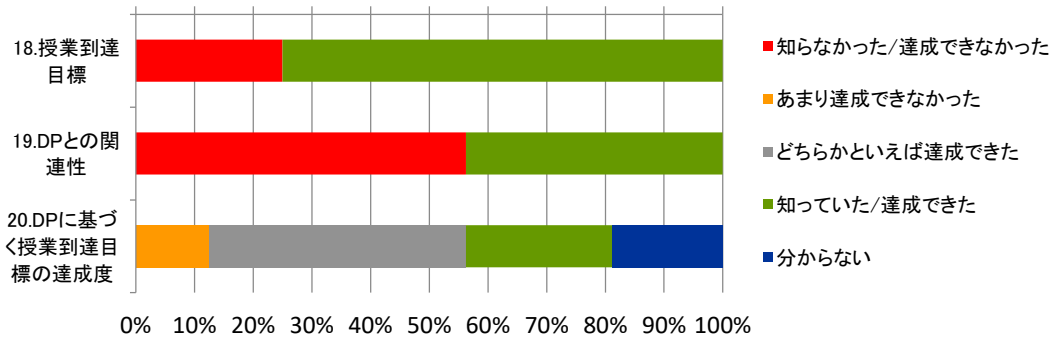
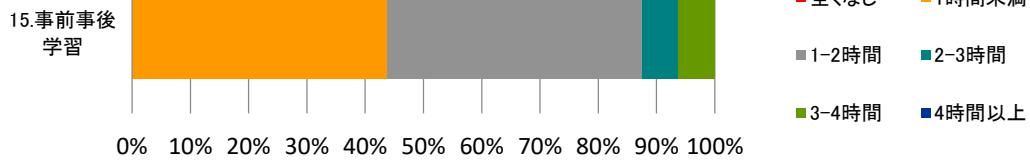
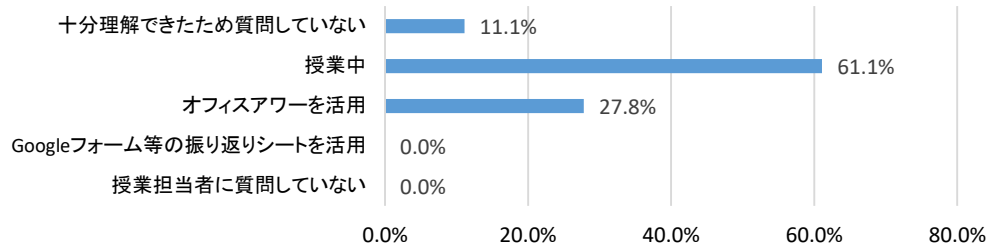
担当教員	加藤 真夕美、横山 剛、渡邊 豊明、清水 一輝、 松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之
------	---

専攻・配当年次	OT 1年	回答者数	16 名
---------	-------	------	------

◆集計データ結果について

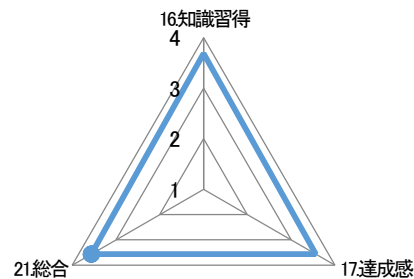


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)

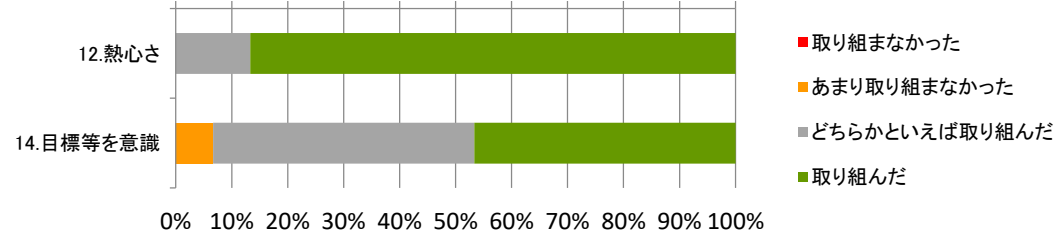


科目名	122.臨床実習Ⅱ（地域）[OT]
-----	--------------------------

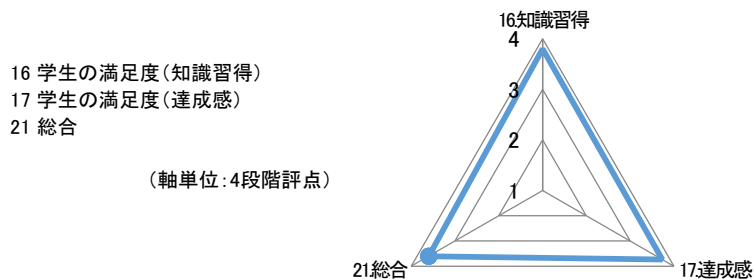
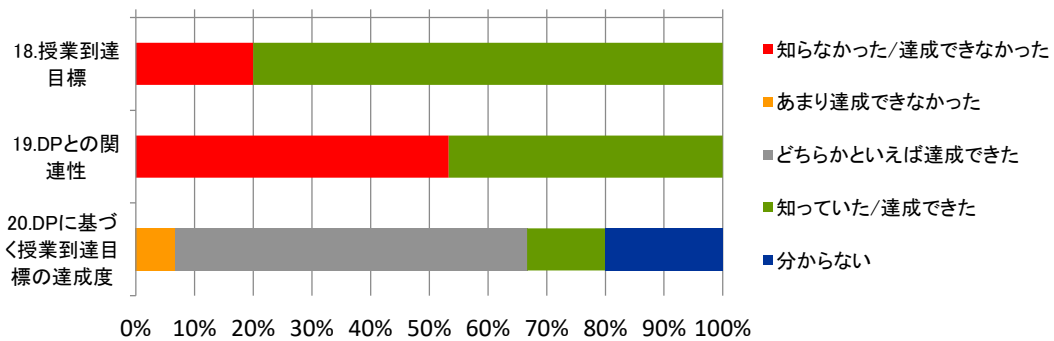
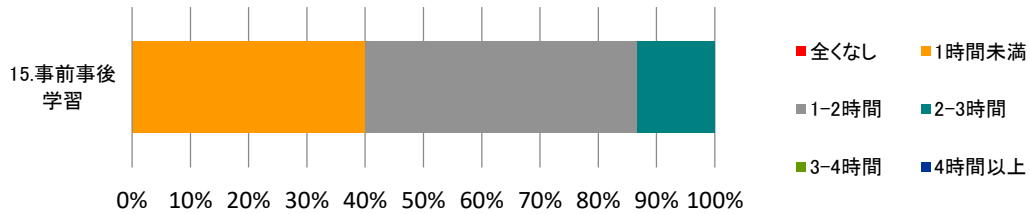
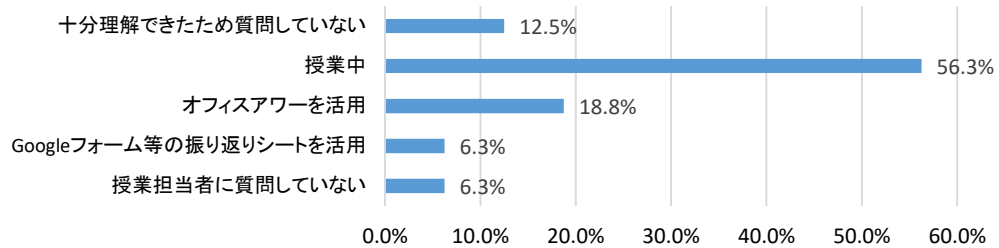
担当教員	加藤 真夕美、横山 剛、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、廣渡 洋史、外倉 由之
------	---

専攻・配当年次	OT 1年	回答者数	15 名
---------	-------	------	------

◆集計データ結果について



13.質問

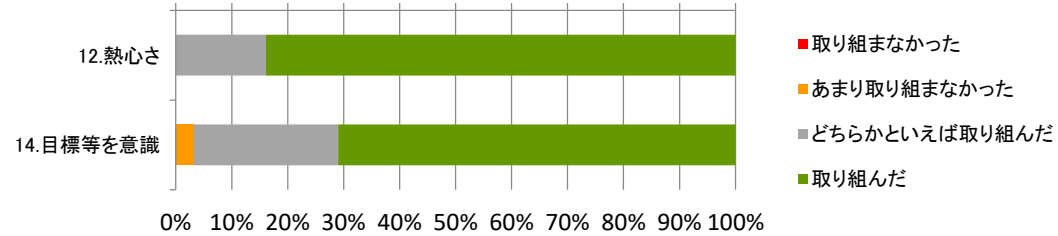


科目名	123.臨床実習Ⅲ（評価）[OT]
-----	--------------------------

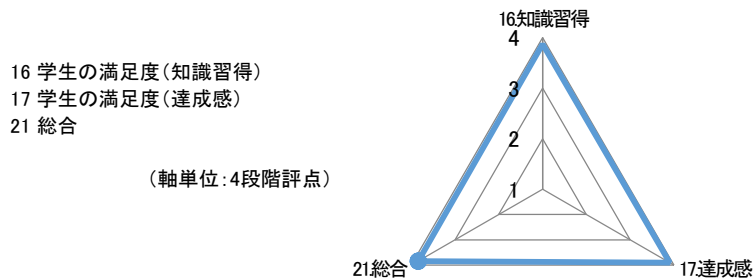
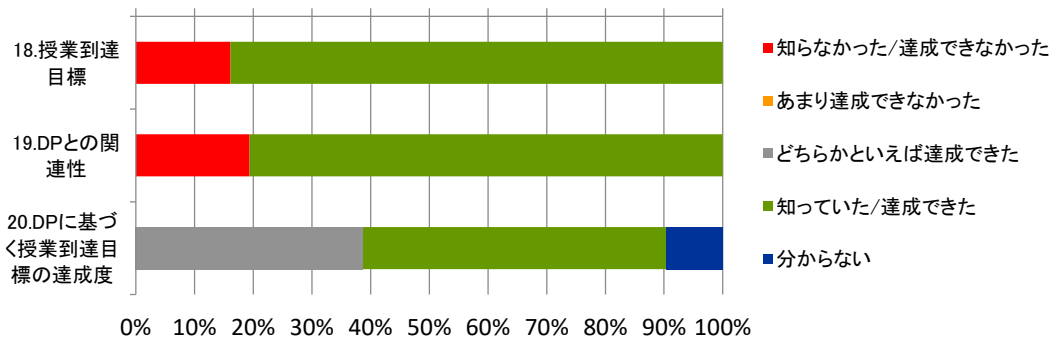
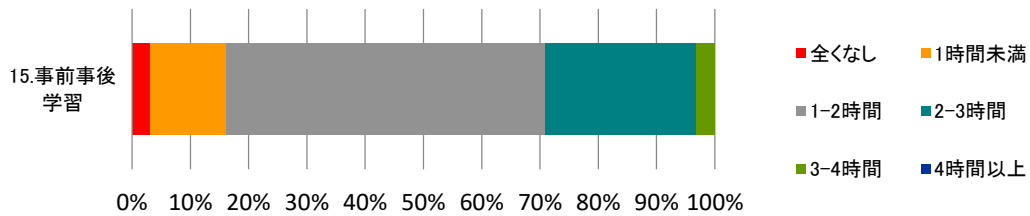
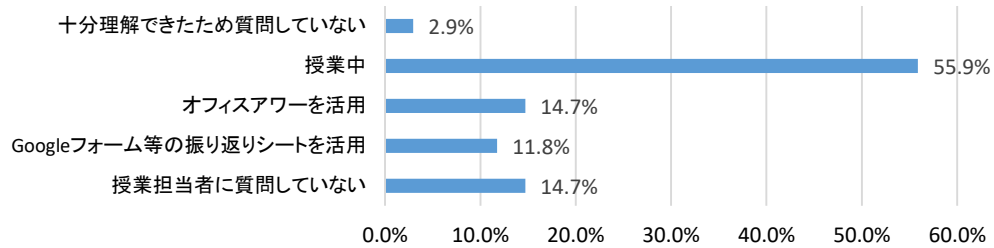
担当教員	横山 剛、加藤 真夕美、廣渡 洋史、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉 由之
------	---

専攻・配当年次	OT 3年	回答者数	31 名
---------	-------	------	------

◆集計データ結果について



13.質問

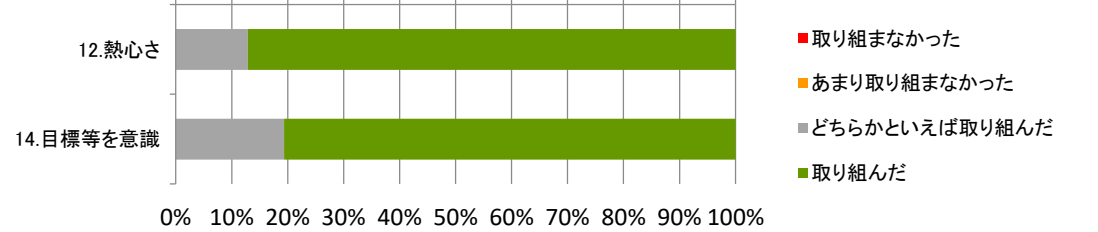


科目名 **124.臨床実習Ⅳ（総合1）[OT]**

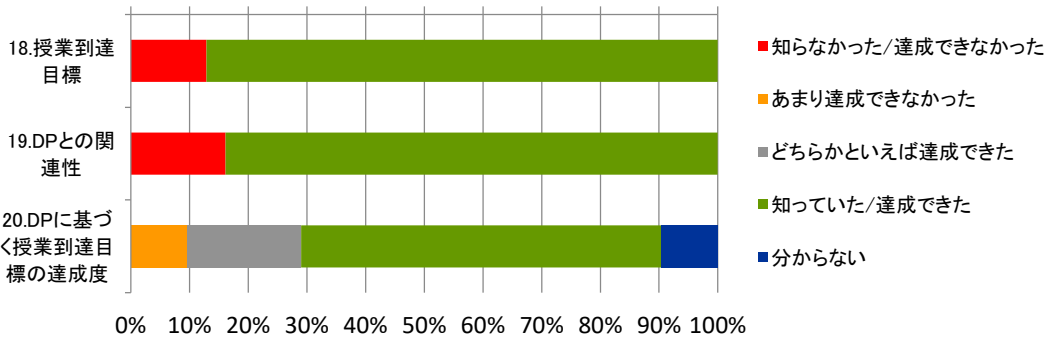
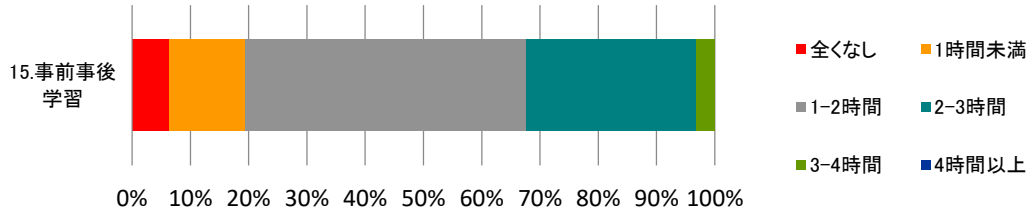
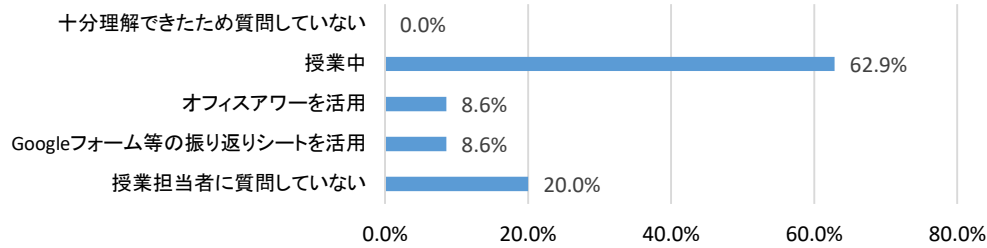
担当教員 横山 剛、加藤 真夕美、廣渡 洋史、渡邊 豊明、
清水 一輝、松田 裕美、外倉 由之

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 31 名

◆集計データ結果について

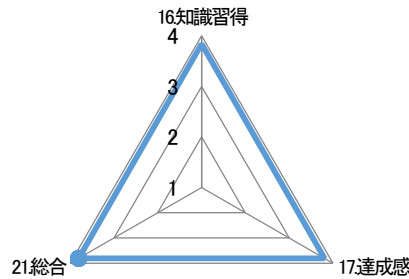


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)



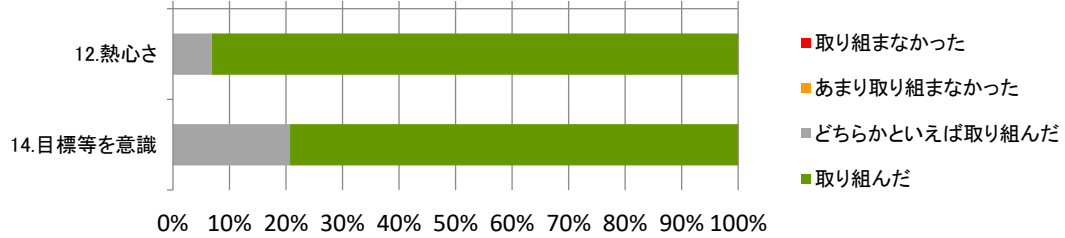
科目名 125.臨床実習 V (総合2) [OT]

担当教員 横山 剛、加藤 真夕美、廣渡 洋史、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉 由之

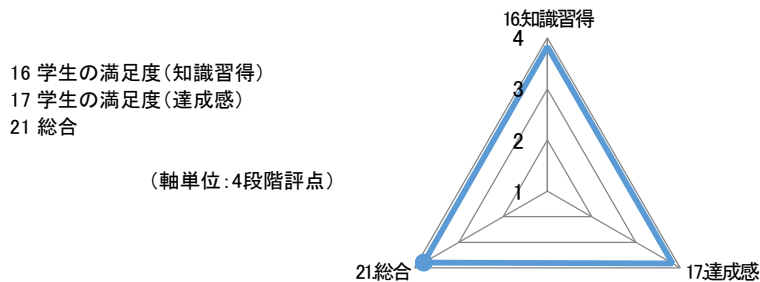
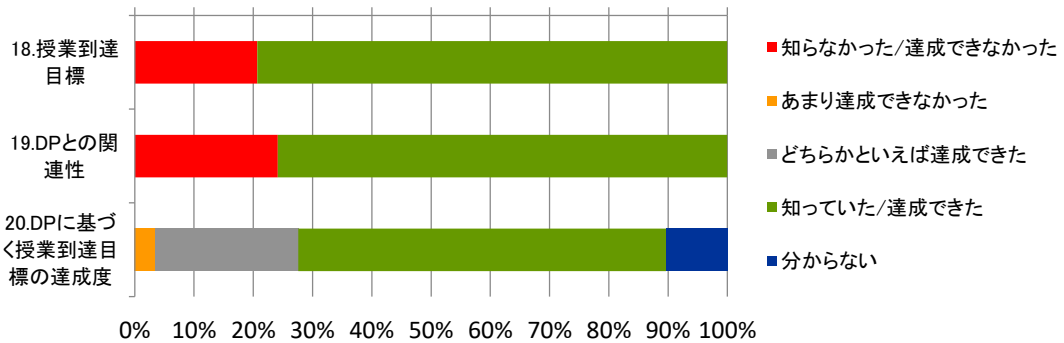
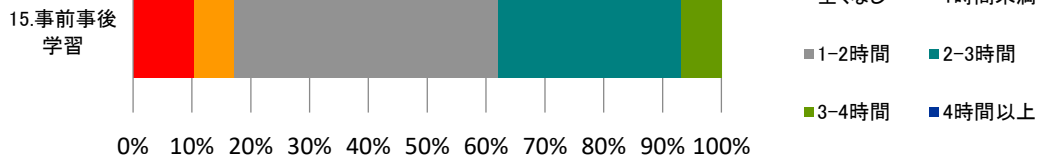
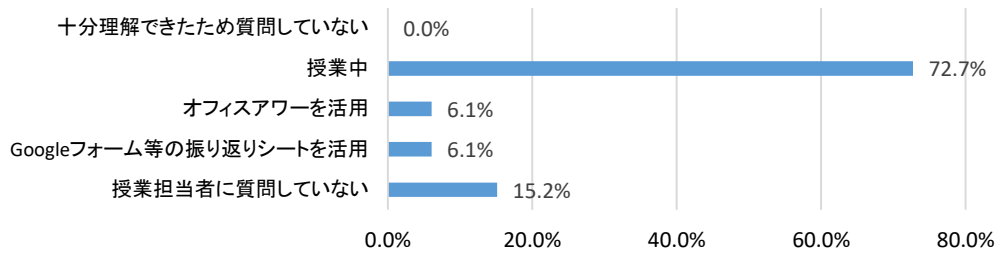
専攻・配当年次 OT 3年

回答者数 29 名

◆集計データ結果について



13.質問

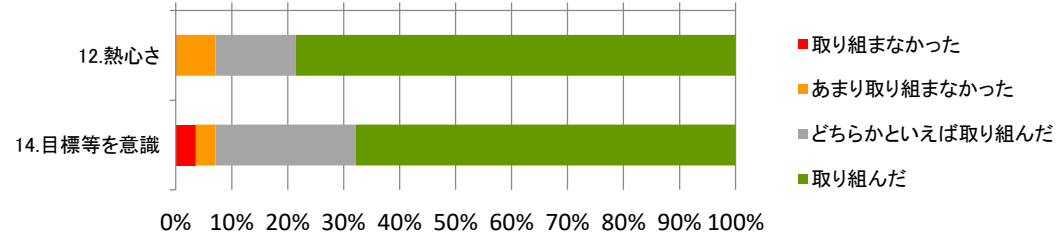


科目名 **126.卒業研究 [30T]**

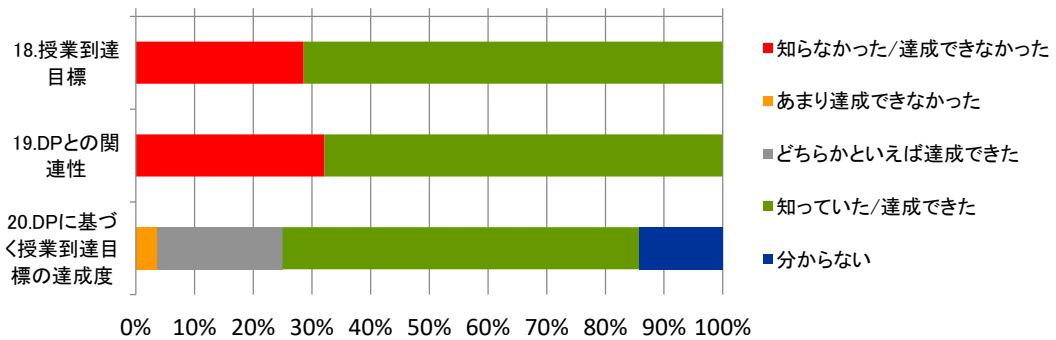
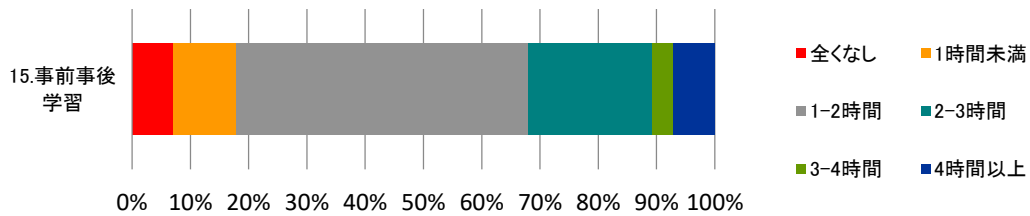
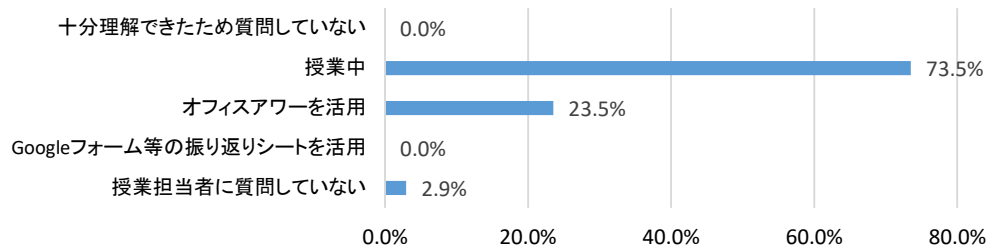
担当教員 横山 剛、加藤 真夕美、廣渡 洋史、渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉 由之

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 28 名

◆集計データ結果について

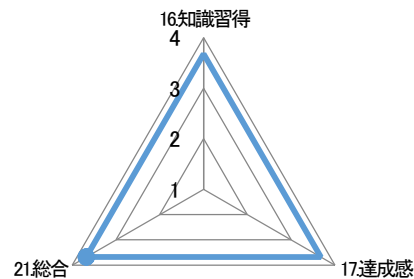


13.質問



16 学生の満足度(知識習得)
17 学生の満足度(達成感)
21 総合

(軸単位:4段階評点)

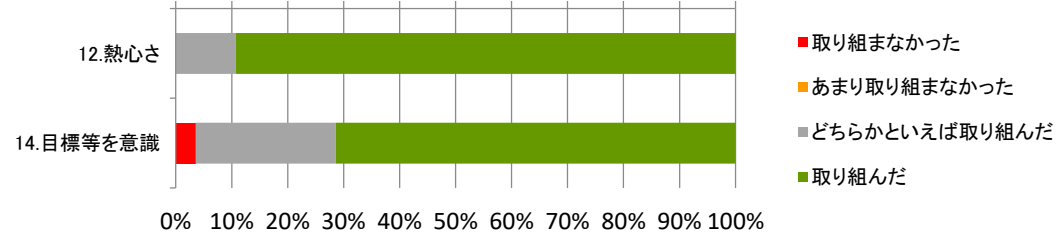


科目名 **127.総合演習 [3OT]**

担当教員 廣渡 洋史、田中 雅章、種田 陽一、横山 剛、加藤 真夕美、
渡邊 豊明、清水 一輝、松田 裕美、外倉 由之、加藤 真弓

専攻・配当年次 OT 3年 回答者数 28 名

◆集計データ結果について



13.質問

